



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(平成17年9月調査分)

景気の現状判断DI

	平成17年6月	平成17年9月	前回調査比
茨城県	47.7	48.5	+ 0 . 8
県北地域	45.2	41.2	- 4 . 0
県央地域	47.8	49.6	+ 1 . 8
鹿行地域	52.1	48.1	- 4 . 0
県南地域	45.7	53.0	+ 7 . 3
県西地域	47.8	50.5	+ 2 . 7

景気の先行き判断DI

	平成17年6月	平成17年9月	前回調査比
茨城県	48.7	51.3	+ 2 . 6
県北地域	46.1	49.6	+ 3 . 5
県央地域	52.7	53.4	+ 0 . 7
鹿行地域	50.4	50.9	+ 0 . 5
県南地域	46.1	54.7	+ 8 . 6
県西地域	48.2	47.7	- 0 . 5

平成17年9月

茨城県企画部統計課

問い合わせ先

統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.htm>

目 次

調査の概要	2
調査結果の概要	4
1 全県の動向	4
（1）景気の現状判断D I	4
（2）景気の先行き判断D I	5
2 地域別の動向	6
（1）景気の現状判断D I	6
（2）景気の先行き判断D I	8
3 回答率	11
景気の判断理由	12
1 景気の現状判断理由	12
2 景気の先行き判断理由	17
3 その他の意見	22

調査の概要

1 調査の目的

経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1) 対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。

平成17年9月30日現在

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、那珂郡、久慈郡
県央地域	水戸市、笠間市、東茨城郡、西茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鹿島郡
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、稲敷郡、新治郡、筑波郡
県西地域	古河市、筑西市、結城市、下妻市、水海道市、坂東市、真壁郡、結城郡、猿島郡

(2) 調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別 業種別調査客体系数】

業種名	具	体	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等			38	39	39	37	36	189
企業関連	製造業(食料品、一般機械器具等)、建設業、金融業			17	16	16	18	19	86
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等			5	5	5	5	5	25
		計		60	60	60	60	60	300

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
- (2) (1)の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断(方向性)
- (4) (3)の理由
- (5) その他景気に関する意見(自由回答)

4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成17年9月調査の調査期間は平成17年9月1日から9月22日である。

5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数(DI)は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、景気動向指数(DI)を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、
 $(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5$ となる。

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは、「良くなっている」「やや良くなっている」の回答構成比が増加し、「やや悪くなっている」の回答構成比が減少したため、0.8ポイント増の48.5となった。6月調査分を上回ったものの、引き続き横這いを表す50を下回った。業種別にみても、企業動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を上回ったが、家計動向関連DIは6月調査分を下回った。

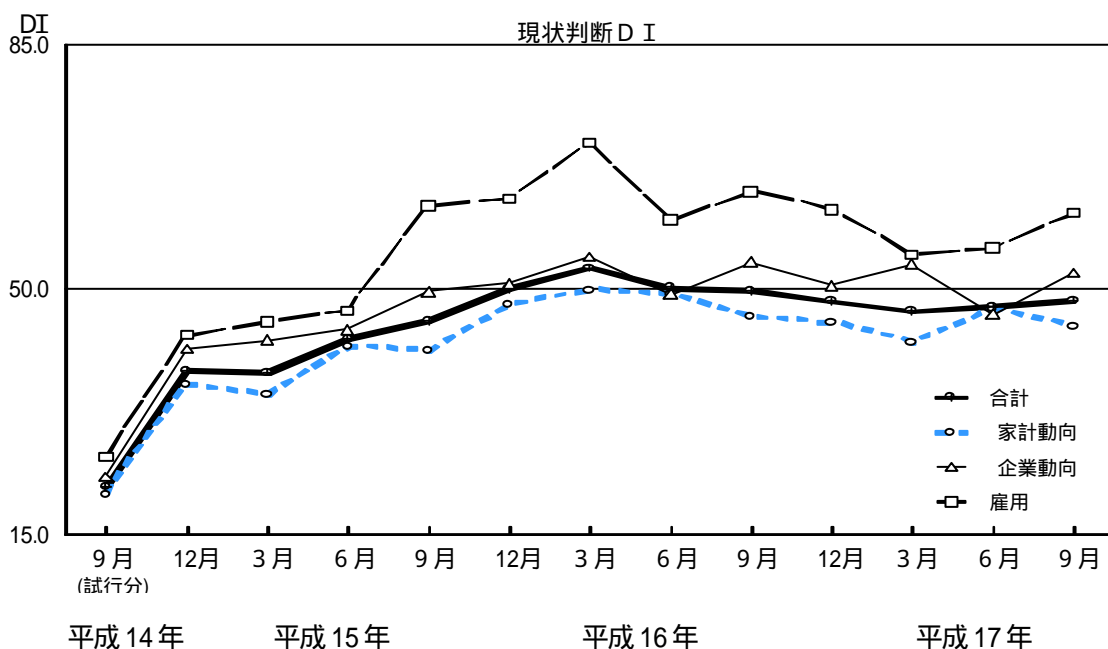
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		49.9	48.3	46.9	47.7	48.5
家計動向関連	家計動向関連	46.0	45.3	42.5	47.1	44.8
	小売関連	48.4	45.1	45.4	47.7	47.4
	飲食関連	50.0	41.7	36.8	50.0	45.0
	サービス関連	42.6	46.2	40.1	44.4	40.9
	住宅関連	50.0	47.2	52.8	61.1	58.3
企業動向関連	企業動向関連	53.9	50.6	53.6	46.5	52.4
	農林水産業	50.0	42.9	46.4	43.8	46.9
	製造業	51.6	50.5	53.6	45.8	50.0
	非製造業	58.6	52.6	55.2	48.3	57.8
雇用関連		64.0	61.5	55.0	56.0	61.0

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成16年 9月	0.7%	24.9%	52.3%	17.4%	4.6%
平成16年 12月	1.8%	25.3%	43.0%	24.2%	5.8%
平成17年 3月	3.2%	18.7%	45.6%	27.6%	4.9%
平成17年 6月	0.3%	21.0%	53.5%	19.6%	5.6%
平成17年 9月	1.4%	22.0%	51.8%	18.8%	6.0%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは、「良くなっている」「やや良くなっている」の回答構成比が増加し、「悪くなっている」の構成比が減少したため、6月調査分から2.6ポイント増の51.3となり、横這いを表す50も上回った。業種別にみても、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは6月調査分を上回ったが、雇用関連DIは6月調査分を下回った。

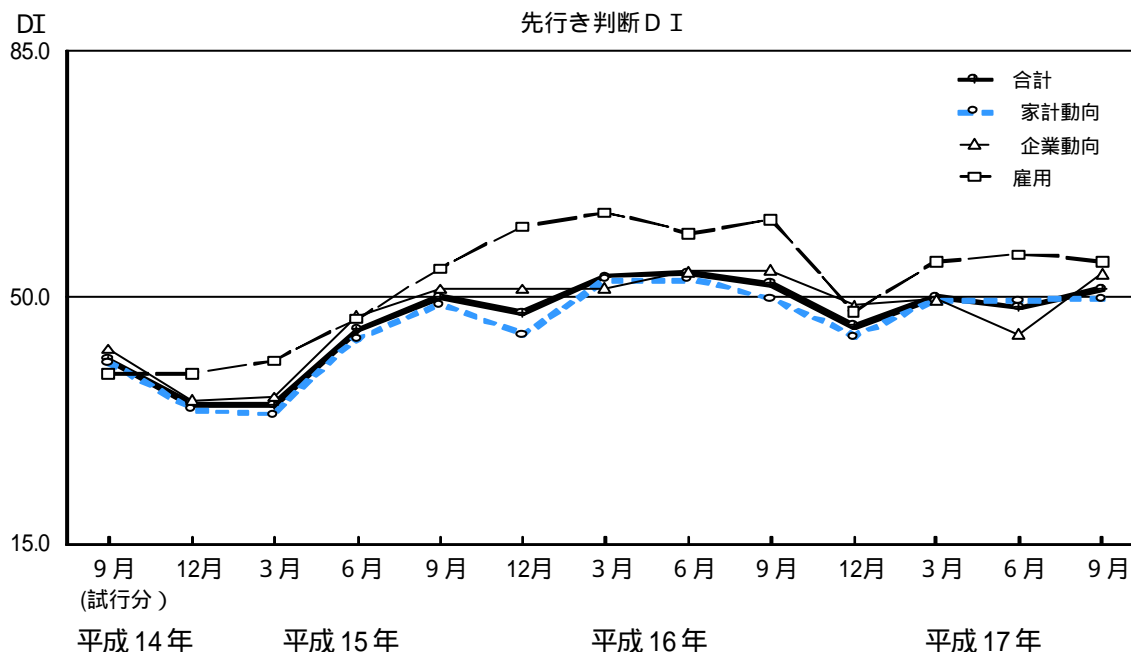
表1-3 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		52.0	46.0	50.1	48.7	51.3
家計動向関連	家計動向関連	49.7	44.4	49.6	49.6	49.9
	小売関連	51.6	46.2	48.2	50.8	47.8
	飲食関連	52.5	40.3	46.1	48.7	47.5
	サービス関連	48.5	43.6	51.6	47.8	51.0
	住宅関連	40.6	47.2	50.0	58.3	61.1
企業動向関連	企業動向関連	53.9	48.8	49.7	44.8	53.3
	農林水産業	50.0	53.6	53.6	50.0	40.6
	製造業	53.6	48.4	47.9	39.6	52.2
	非製造業	55.2	48.3	51.7	51.7	58.6
雇用関連		61.0	47.9	55.0	56.0	55.0

表1-4 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成16年 9月	0.7%	27.0%	55.5%	12.8%	3.9%
平成16年 12月	0.7%	14.4%	57.8%	22.4%	4.7%
平成17年 3月	2.5%	19.8%	56.5%	18.0%	3.2%
平成17年 3月	1.4%	17.1%	61.2%	15.4%	4.9%
平成17年 9月	1.8%	28.0%	48.6%	17.0%	4.6%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移



2 地域別の動向

(1) 景気の現状判断DI

県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは41.2であり、6月調査分と比べて4.0ポイント下回り、引き続き横這いを表す50を下回った。また、DI値は全県を通じて最も低かった。業種別にみても、企業動向関連DIは6月調査分を上回ったが、家計動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		50.4	42.4	42.8	45.2	41.2
	家計動向関連	45.1	38.6	36.5	42.1	35.7
	企業動向関連	57.4	47.1	52.9	47.1	48.5
	雇用関連	65.0	56.3	55.0	60.0	55.0

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年 9月	1.7%	22.4%	56.9%	13.8%	5.2%
平成16年12月	0.0%	10.7%	53.6%	30.4%	5.4%
平成17年 3月	0.0%	10.2%	57.6%	25.4%	6.8%
平成17年 6月	0.0%	19.3%	49.1%	24.6%	7.0%
平成17年 9月	0.0%	15.8%	47.4%	22.8%	14.0%

県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは49.6であり、6月調査分と比べて1.8ポイント上回ったものの、引き続き横這いを表す50を下回った。業種別にみても、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは6月調査分を上回ったが、雇用関連DIは6月調査分を下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		47.7	49.1	47.3	47.8	49.6
	家計動向関連	42.1	45.1	42.9	46.4	46.7
	企業動向関連	53.3	55.0	56.7	43.8	53.1
	雇用関連	70.0	60.0	50.0	70.0	60.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年 9月	1.8%	23.6%	45.5%	21.8%	7.3%
平成16年12月	1.8%	25.0%	46.4%	21.4%	5.4%
平成17年 3月	5.5%	14.5%	47.3%	29.1%	3.6%
平成17年 6月	1.8%	19.6%	50.0%	25.0%	3.6%
平成17年 9月	1.7%	20.3%	59.3%	11.9%	6.8%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは48.1であり、6月調査分と比べて4.0ポイント下回り、横這いを表す50も下回った。業種別にみても、家計動向、企業動向及び雇用関連の全てのDIが6月調査分を下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		52.2	52.3	45.5	52.1	48.1
	家計動向関連	46.5	45.8	40.3	51.3	46.3
	企業動向関連	61.7	62.5	56.7	50.0	48.3
	雇用関連	65.0	70.0	50.0	65.0	60.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年 9月	0.0%	35.7%	41.1%	19.6%	3.6%
平成16年12月	3.6%	34.5%	32.7%	25.5%	3.6%
平成17年 3月	3.6%	17.9%	42.9%	28.6%	7.1%
平成17年 6月	0.0%	28.8%	52.5%	16.9%	1.7%
平成17年 9月	3.7%	16.7%	51.9%	24.1%	3.7%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは53.0であり、6月調査分と比べて7.3ポイント上回り、横這いを表す50も上回った。またDI値は全県を通じて最も高かった。業種別にみても、家計動向、企業動向及び雇用関連の全てのDIが6月調査分を上回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		50.0	47.8	50.4	45.7	53.0
	家計動向関連	49.3	49.3	48.6	47.1	52.1
	企業動向関連	50.0	44.1	50.0	44.4	52.9
	雇用関連	55.0	50.0	65.0	40.0	60.0

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年 9月	0.0%	19.3%	63.2%	15.8%	1.8%
平成16年12月	0.0%	28.6%	41.1%	23.2%	7.1%
平成17年 3月	5.2%	27.6%	36.2%	25.9%	5.2%
平成17年 6月	0.0%	19.0%	56.9%	12.1%	12.1%
平成17年 9月	1.7%	31.0%	46.6%	19.0%	1.7%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは50.5であり、6月調査分と比べて2.7ポイント上回り、横這いを表す50も上回った。業種別にみても、企業動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を上回ったが、家計動向関連DIは6月調査分を下回った。

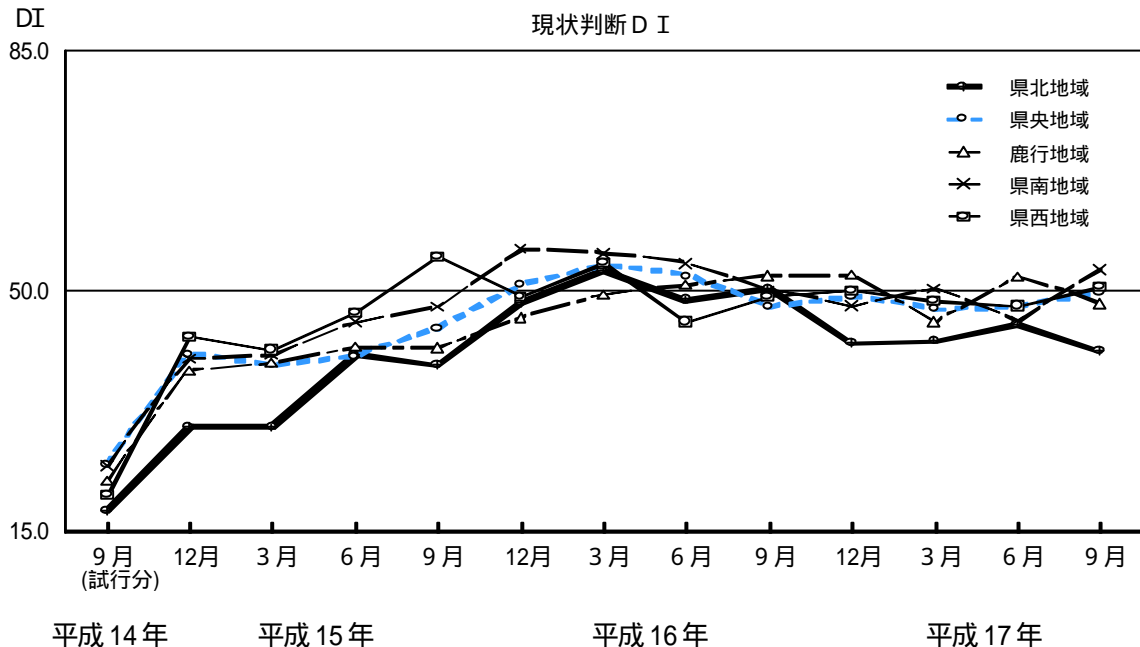
表2 - 9 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		49.1	50.0	48.6	47.8	50.5
	家計動向関連	46.9	48.3	45.2	48.4	42.7
	企業動向関連	48.6	47.4	52.6	47.4	58.3
	雇用関連	65.0	70.0	55.0	45.0	70.0

表2 - 10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年 9月	0.0%	23.6%	54.5%	16.4%	5.5%
平成16年12月	3.7%	27.8%	40.7%	20.4%	7.4%
平成17年 3月	1.8%	23.6%	43.6%	29.1%	1.8%
平成17年 6月	0.0%	17.9%	58.9%	19.6%	3.6%
平成17年 9月	0.0%	25.9%	53.7%	16.7%	3.7%

図2 - 1 地域別現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは49.6であり、6月調査分と比べて3.5ポイント上回ったものの、引き続き横這いを表す50を下回った。業種別にみても、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは6月調査分を上回ったが、雇用関連DIは横這いだった。

表2 - 11 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		53.4	43.8	45.8	46.1	49.6
	家計動向関連	52.1	40.7	45.9	46.4	47.1
	企業動向関連	54.4	47.1	44.1	42.6	52.9
	雇用関連	60.0	56.3	50.0	55.0	55.0

表2 - 12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年 9月	0.0%	25.9%	63.8%	8.6%	1.7%
平成16年12月	0.0%	7.1%	66.1%	21.4%	5.4%
平成17年 3月	1.7%	10.2%	59.3%	27.1%	1.7%
平成17年 6月	1.8%	8.8%	64.9%	21.1%	3.5%
平成17年 9月	1.8%	21.1%	56.1%	15.8%	5.3%

県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは53.4であり、6月調査分と比べて0.7ポイント上回り、引き続き横這いを表す50を上回った。業種別にみても、企業動向関連DIは6月調査分を上回ったが、家計動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を下回った。

表2 - 13 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成16年 9月	平成16年 12月	平成17年 3月	平成17年 6月	平成17年 9月
	合計		51.4	48.7	50.5	52.7
	家計動向関連	48.6	46.5	52.1	55.0	48.7
	企業動向関連	55.0	53.3	45.0	43.8	62.8
	雇用関連	60.0	50.0	55.0	65.0	60.0

表2 - 14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年 9月	0.0%	25.5%	56.4%	16.4%	1.8%
平成16年12月	3.6%	12.5%	62.5%	17.9%	3.6%
平成17年 3月	1.8%	14.5%	72.7%	5.5%	5.5%
平成17年 6月	5.4%	19.6%	60.7%	8.9%	5.4%
平成17年 9月	3.4%	28.8%	49.2%	15.3%	3.4%

鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは50.9であり、6月調査分と比べて0.5ポイント上回り、引き続き横這いを表す50を上回った。業種別にみても、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは6月調査分を上回ったが、雇用関連DIは6月調査分を下回った。

表2 - 15 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成16年 9月	平成16年 12月	平成17年 3月	平成17年 6月	平成17年 9月
	合計		51.8	44.5	54.9	50.4
	家計動向関連	47.9	41.0	51.4	51.3	52.2
	企業動向関連	58.3	53.6	61.7	45.3	51.7
	雇用関連	60.0	45.0	60.0	60.0	40.0

表2 - 16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年 9月	0.0%	33.9%	44.6%	16.1%	5.4%
平成16年12月	0.0%	14.5%	56.4%	21.8%	7.3%
平成17年 3月	5.4%	26.8%	51.8%	14.3%	1.8%
平成17年 6月	0.0%	25.4%	54.2%	16.9%	3.4%
平成17年 9月	1.9%	22.2%	55.6%	18.5%	1.9%

県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは54.7であり、6月調査分と比べて8.6ポイント上回り、横這いを表す50も上回った。また、DI値は全県を通じて最も高かった。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが6月調査分を上回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		51.8	44.6	52.2	46.1	54.7
	家計動向関連	50.0	47.1	51.4	46.4	54.2
	企業動向関連	52.8	39.7	52.8	47.2	52.9
	雇用関連	60.0	45.0	55.0	40.0	65.0

表2-18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年 9月	1.8%	26.3%	54.4%	12.3%	5.3%
平成16年12月	0.0%	17.9%	46.4%	32.1%	3.6%
平成17年 3月	1.7%	29.3%	46.6%	20.7%	1.7%
平成17年 6月	0.0%	17.2%	58.6%	15.5%	8.6%
平成17年 9月	1.7%	41.4%	36.2%	15.5%	5.2%

県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは47.7であり、6月調査分と比べて0.5ポイント下回り、引き続き横這いを表す50を下回った。また、DI値は全県を通じて最も低かった。業種別にみても、企業動向関連DIは6月調査分を上回ったが、家計動向関連DI及び雇用関連DIは6月調査分を下回った。

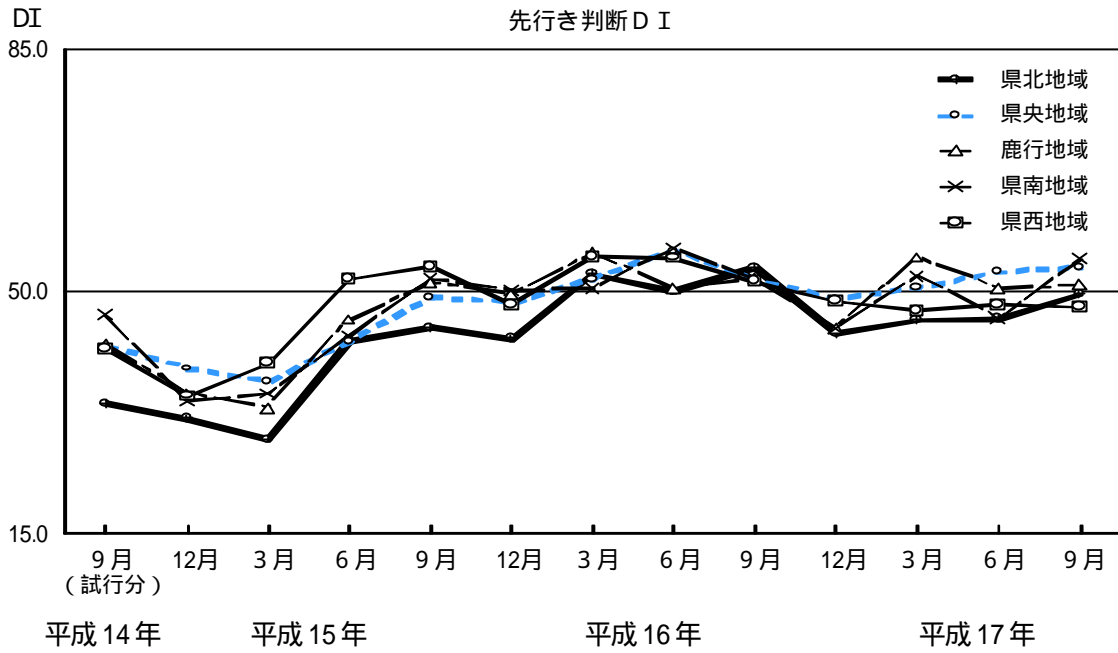
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成16年	平成16年	平成17年	平成17年	平成17年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		51.4	48.6	47.3	48.2	47.7
	家計動向関連	50.0	47.5	46.8	48.4	46.8
	企業動向関連	50.0	51.3	46.1	44.7	47.2
	雇用関連	65.0	45.0	55.0	60.0	55.0

表2-20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成16年 9月	1.8%	23.6%	58.2%	10.9%	5.5%
平成16年12月	0.0%	20.4%	57.4%	18.5%	3.7%
平成17年 3月	1.8%	18.2%	52.7%	21.8%	5.5%
平成17年 6月	0.0%	14.3%	67.9%	14.3%	3.6%
平成17年 9月	0.0%	25.9%	46.3%	20.4%	7.4%

図2 - 2 地域別先行き判断DIの推移



3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	282 人	94.0%
県北地域	60 人	57 人	95.0%
県央地域	60 人	59 人	98.3%
鹿行地域	60 人	54 人	90.0%
県南地域	60 人	58 人	96.7%
県西地域	60 人	54 人	90.0%

景気の判断理由

1 景気の現状判断理由

(1) 東北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	-	-	-
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	前年比売上げが、以前と比べて改善している。
		居酒屋	客数・客単価ともに、昨年度より増加している。営業努力による成果もあるが、4月以降確実に変化が見られる。
		ゲームセンター	残業続きで、遊ぶ暇がない程多忙な人が増加している。常連客の来店頻度は減少したが、来店時の金遣いは良くなったように感じる。
	企業	水産業関係者	沖合の小型船漁業にあっては、8月中旬より4年ぶりにシラス漁が活発となり、加工業者等に若干の景気回復感が見られる。一方で、冷凍業者等は相変わらず低迷しており、更なる水揚げ量の増加を期待している。
		製造業（電気機械器具）	業種によって多少の格差はあると思うが、日立地区の製造業については、作業量も増加傾向にあり、徐々にではあるが景気が良くなっていると思う。
製造業（電気機械器具）		下期の生産計画が、輸出案件も含め増加している。	
非製造業（建設業）		デフレに対応しているうちに、経営形態も経営者の意識も改善してきたような気がする。	
雇用	学校就業関係者	学生の求人が増加している。また、在職者向け講座への受講者が増加している。	
	人材派遣業	取引先から増員の依頼が増加してきた。また、派遣社員の残業時間数が増加している。	
変わらない	家計	商店街代表者	商店街への来街者、売上げともに低迷したままで、景気回復の兆しが見えない。
		スーパー	客の様子を見ていると、必要最低限の買物しかない傾向が続いているように思う。催事に対する支出も減少しており、盆商品等も以前ほどの動きがなかった。
		スーパー	最低限生活に必要なものだけを購入している。安くても必要のないものには見向きもしない。
		衣料品専門店	8月は売上げが若干プラスになったが、トータルではあまり良くない。
		家電販売店	お金がないのか、出したいだけなのか、客の消費行動が読めない。
		農産物直売所	客単価に変化はない。安い物でも吟味して購入する客が多い。夏野菜は家庭でも収穫されるので購買客数が減少する。
		小売業（靴製品）	必要な品以外は買わないという消費者の購買姿勢に変化はない。
		居酒屋	客数は横這いである。
		観光型ホテル	同業者や納入業者に聞いても、良い話はあまりない。昨年の同時期に比べ、売上げも減少している。しかし、株価は上昇傾向にあり、マイナス面ばかりではないように思う。
		観光型ホテル	個人の消費単価は若干上向いているが、燃料費の急騰もあり、収支状況は改善されていない。
	旅行代理店	客単価が上昇しない。	
	タクシー運転手	売上げ金額を3ヶ月前と比較してみると、変わっていない。	
	ドライブイン	盆の帰省に伴い、客単価は平均500円増加した。しかし、8月13日をピークに右肩下がり売上げは減少してしまった。昨年の同時期と比較しても、来客数は少ない。	
	住宅販売会社	来店者数に変化がない。	
	企業	製造業（一般機械器具）	好転・悪化要因とも顕著なものはない。
製造業（一般機械器具）		仕事面では相変わらず受注が少ない。また、街の様子もイベント・行事等の内容縮小化や飲食店等の閉店が目立つ。	
製造業（電気機械器具）		自社の協力工場においては、他社からの仕事受注がない。	
製造業（電気機械器具）		業績数値に変化が感じられない。	
製造業（輸送用機械器具）		北米及び中国市場における自動車販売が好調で、生産物量は増加傾向にある。但し、カーメーカーの値下げ要請が継続する中、原油高騰に伴い鋼材・銅・樹脂等の原材料価格が値上がりしており、収益を圧迫している。	
非製造業（建設業）		公共工事が減少している。このところ、取引先の倒産や廃業が増加してきている。	
非製造業（金融業）		受注や売上げが増加・減少したという話があり聞かれない。	
非製造業（不動産業）		分譲住宅販売時の集客は若干増加傾向にあるが、成約状況に変化はない。仲介や賃貸も横這い状況が続いている。また、ローコスト住宅の需要が減少傾向にあるように感じる。	
非製造業（情報処理サービス）	業界によっては、かなり景気が良くなっているようだが、周囲を見る限りは良くなっているようには見えない。		
雇用	求人開拓員	踊り場状況脱出といっているが、訪問先の企業からの声には、そのような内容は含まれていない。	
	公共職業安定所	製造業の求人は減少している。建設業の求人は僅かながら増加しているものの、全体として減少傾向が続いている。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	客単価が減少している。競合店での1品当たりの単価の低下も影響が大きい。
		自動車販売店	売上げが、前年に比べ1割程度低下している。
		小売業（酒類）	7~8月は連休のため売上げが減少した。酒類では焼酎の売行きが順調な一方で、ビールや発泡酒の売行きは良くない。
		スナック	客が少しずつ減少し、売上げも少しずつ低下してきている。特に、40代で4~5人連れの客が減少してきたように思う。会社の暑気払いや家族・友達と集まる機会が減少しているように思う。
		食堂	夏休みやお盆等で、8月は会社関係の利用者が減少した。また、夏季休暇中の出費が高んだためか、来店者の財布のヒモが固いような気がする。
		タクシー運転手	企業の経費削減により、ビジネスマンのタクシー利用が減少しているように思う。
	レジャー施設	天候の影響に左右される部分もあるが、入場者・客単価の双方が落ち込んだ。	
	理・美容店	4~6月は、年度替りに伴う異動、入学・卒業、ボーナス時期があり若干良かったが、7~9月は元に戻ったと感じる。	
企業	林業関係者	依然として、材木価格の低下傾向が続いている。	
	製造業（食品）	売上げ状況に変化はないが、製品価格の下落と原油の高騰により、採算面で厳しい。	
	製造業（電気機械器具）	夏向け商品は8月で一段落したので、仕事量は減少している。デジカメ等のカメラ関係も中国に移行してしまった。	
雇用	求人広告	大企業の採用計画がなく、派遣・アウトソーシング会社の雇用先も減少傾向にある。個人会社や中小企業も同様に採用計画がないようである。	
悪くなっている	家計	小売業（土産物）	天気が良く海水浴客も多かったが、日帰り旅行が大半で、客数・客単価が年々低下している。中元用品も同様の傾向がみられる。
		レストラン	伊勢基デパートの閉店以降、人通りが減少してしまい、来客数も僅かになった。
		観光型ホテル	利用状況がかなり落ち込んでいる。予約に限らず、問い合わせの電話も少ない。
		タクシー運転手	長期の夏休みやお盆等により出費が高んだのか、タクシーの利用客が減少している。
		タクシー運転手	平日の病院、買物、会社関係の利用が減少し、土日祝日は更に仕事が多く、待機時間が長い。飲食店利用客の減少に伴い、夜間の仕事も少なく、病院患者も病院で送迎してしまうので減少する一方である。
		ゴルフ場	利用者が、目標に対して11%減、対前年比で15%も減少している。また、喫茶店の利用が少なく、ショップで半額セールを実施しても客の反応は鈍い。
		クリーニング店	客数、客単価ともに減少している。
企業	製造業（電気機械器具）	国内・海外とも売上げが伸びず、対3ヶ月前売上比は40%まで落ち込んだ。	

(2) 県央地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	理 由
良	企業	製造業（一般機械器具）	6～8月にかけて売上げが右肩上がりである。受注残高からいって、9月前月売上げを上回るの確実と思われる。
やや良くなっている	家計	スーパー	客数が2～5%増加傾向にある。
		専門スーパー	「景気が悪いな～」という会話を、以前のように頻繁にしなくなった。特に、農家や工業者の方と話しているとその傾向が顕著な気がする。
		レストラン	客数・客単価が若干上がっている。単価増については、メニュー構成や販売商品の見直しが原因なのか、景気改善のためなのか、まだ判断がつかない。
		観光型ホテル	6月以降の客が堅調に推移している。
		観光名所	売上げは例年並で推移している。但し、昨年の猛暑に比べて、今年は若干過ごし易いので、端境期でも人出が期待できるような気がする。
		レジャー施設	夏場に利用が高くなるのは例年の傾向であるが、利用者数が昨年同期より約20%増加した。
		建築設計事務所	バブル時に購入し、塩漬けになっていた事業用地の活用が始まり、業務依頼を受けることができた。
	企業	非製造業（建設業）	民間の設備投資が増加している。マンション等の賃貸住宅は一段落ついた感があるが、福祉施設や、事務所、倉庫、店舗等の案件が多くなっている。設備投資できる企業とそうでない企業とが明確に色分けされてきた印象がある。
		非製造業（輸送業）	運送・倉庫の引き合いが増えている。
		非製造業（広告代理業）	プライダル施設の新規・リニューアルオープンが続き、積極的な宣伝広告が展開されている。少子化により組数は減少しているが、ハード、ソフトの充実により単価アップの努力が見受けられる。
雇用	求人開拓員	全般的に各企業の受注量は増加しており、求人数も徐々に増加している。	
	公共職業安定所	管内企業の業況調査では、調査対象154事業所のうち75.3%が「普通～好調」と回答した。また、雇用保険受給者実人員は26ヶ月連続、有効求職者数は27ヶ月連続で減少している。雇用調整助成金の申請者はH15年度よりいいない。	
変わらない	家計	商店街代表者	売上げ・客数とも横ばい。つくばエクスプレスの開通はこちらでも話題になっている。
		百貨店、総合スーパー	宝石・時計等の高額品や紳士服・化粧品等の売行きが良い反面、食料品や子供服、家庭用品等が伸び悩んでいる。来客数の減少傾向も依然として続いており、多様化する市場における消費の使い分けが一層進行しているものと思われる。
		百貨店、総合スーパー	夏物商戦の終盤、客の消費マインドは上がったように感じた。但し、売上げの中身を見ると、バーゲンの伸び率が高い。バーゲンに助けられた格好である。必要な商品が適正価格になったために動いたのだから、景気は変わっていないと思う。
		スーパー	競合他社がオープンした後は、そのままの数値で推移している。
		スーパー	売上げ・客単価とも改善していない。
		コンビニエンスストア	商品の販売状況を確認してみたが、3ヶ月前と変わっていない。
		専門スーパー	昨年同時期と売上げが変わらない。
		自動車販売店	景気が良かったという話は聞かない。車の販売台数も伸びてはいない。
		農産物直売所	最近では川原でキャンプする人も少なくなり、客数・売上げ等も前年を割り込んだ。また、お盆の時期も売上げの伸びは鈍かった。
		ファミリーレストラン	直近の売上推移を見ても景気に大きな変化はない。
		レストラン	報道等では、地方景気の見通しが明るいように言われているが、個人消費は依然として改善されていないように思う。
		都市型ホテル	例年、夏場は宴会等が入るが、今年はかなり少なかった。全体的には、景気はまだ上向きにはなっていないと思う。
		タクシー運転手	売上げ等には変化がない。乗客からは「勝ち組・負け組」の差が開くばかりだという声を良く耳にする。
		ドライブイン	夏の繁忙期が終わり、一般客が減少した。
		パチンコ店	昨年と比較して、数%だが売上げが伸びている。
		レジャー施設	利用者・収入とも、対前年比で3ヶ月前と同じような率で推移している。
		理・美容店	町並みに大きな変化はない。客の話にも景気の変化は感じられない。
企業	製造業（食品）	店舗においては客数の減少、仕入れにおいては、原油高騰の影響をうけて包装材料等が値上がりしているが、現状では大きな変化は見られない。	
	製造業（食品）	販売額はやや上向き傾向だが、原材料特に原油の高値による収益への影響が懸念される。	
	製造業（金属製品）	原油高騰で、材料や消耗品価格の値上がりが目につく。現在のところ、まだ収益に影響はでていないようである。	
	非製造業（金融業）	企業の好業績、景気回復基調が報道されているが、地方都市での消費者の購買意欲や事業者の設備投資意欲は、依然として弱く変化がない状況である。	
	非製造業（不動産業）	客数は増加しているが、客単価が下落しているため、全体で見ると変わらない。	
	非製造業（情報処理サービス）	客からの引き合いや商談状況から判断して、景気は大きく変わらないと思われる。	
雇用	人材派遣業	受注の増加がない。	
	求人広告	ボーナスカット等の話が多く聞かれるので、景気はまだ上向きとはいえない。	
	学校就業担当者	学生の内定状況からみると、昨年同時期に比べ景気は回復しつつあるように見える。しかし、現時点が3ヶ月前と比べて更に景気が良くなっていると判断する積極的な理由は見つからない。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	特に8月の業績は悪かった。商店街や小売業にとって、景気は良くなっていない。
		スーパー	個人の給与は横ばい状態だが、重税感が重く可処分所得が減っているのではないかと。
		タクシー運転手	選挙前の時期は、取締りが厳しくなるため、夜の飲食店へ行くことを控える傾向がある。9月は衆院選・知事選があったため、タクシーの利用客も減少した。
		タクシー運転手	2月と8月は、1年のうちで売上げが低迷する時期である。今年は加えて選挙があったため、人の動きがやや止まったような気がする。また暑さのためか、日中の商店街は閑散としていた。
		ゴルフ場	7～9月に利用できる夏季特別優待券を配布したが、効果は現れず予約件数は減少している。
企業	製造業（出版・印刷業）	ゲームセンター	インストアのプレイコーナーは、オーナーの集客力に左右される。大型ショッピングセンター内のプレイコーナーは、依然として前年割れの状態が続いている。本業も回復基調になく、迷走している感がある。原油高や衆院選の結果、人口減少問題の表面化等があり、消費が冷え込むことが予想される。
		製造業（出版・印刷業）	6月頃までは年度始めということや、各種団体の総会等があり、業界に活気があったが、夏から秋にかけては印刷物の動きもあまり良くない。
悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	売り手側が積極的に働きかけていかないと、商品が売れなくなっている。客は価格にとってもシビアで、同じ商品なら安い店で購入することを徹底している。余計な買物はしない傾向が一層強まっているように感じる。
		タクシー運転手	8～9月は客が少なかった。悪い影響は衆院選であると思う。
		理・美容店	いつも夏場は忙しかったのに、今年の夏は例年になく暇だった。
企業	製造業（土石製品）	受注が減少している。	

(3) 鹿行地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由	
良く	家計	スーパー	祭事や余暇を楽しむ人が増えてきたことに伴い、自分が楽しむための商品を購入する客が増加している。また、ゆすり・たかりのようなクレームが少なくなっている。	
		コンビニエンスストア	客単価及び買上点数が増加している。	
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	今年の夏は天候にも恵まれ、売上は昨年と比べて好転している。	
		自動車販売店	週末や月末、夜の繁華街に人が増えたことに驚く。地元大手鉄鋼メーカーの株価が260円台まで上昇し、下請け関連企業も忙しくなったようである。この好況は来年頃までは続く予想される。	
		洋食食堂	店舗改装に取り組んだ結果、来店客が増加した。また、この3ヶ月で2度、映画やテレビのロケ弁の発注を受けた。この頻度では商売への影響は少ないが、ロケ弁発注の候補にのぼり、利用してもらったのは光栄なことだ。	
		サービス業	ここ数年、盆前後は受注が落ちていたが、今年は昨年と比べて低下の幅が少ない。	
	企業	住宅販売会社	キャンペーンの反応が予想より大きく、来客も多かった。客の中には、夏休み中に大きな買物をした人や旅行をした人も多く、景気は良くなっていると感じる。	
		製造業(食品)	何となく活気が感じられる。	
雇用	非製造業(輸送業)	顧客からの問い合わせ、仕事の追加要請が次々に入っている。新規顧客からの保管要請もきている。運送に関しては、燃料高の問題はあるものの、新規の仕事が増加している。		
	公共職業安定所	求人が増加している一方、求職は減少している。		
変わらない	家計	学校就業関係者	求人を強く希望する企業が増えた。	
		商店街代表者	景況感としては、一部でやや改善しているのが感じられるが、全体ではさほど変わっているとは思えない。	
		商店街代表者	3ヶ月前と特に変わった兆候は見当たらない。	
		小売業(酒類)	今年の夏はかなり暑かったため、飲料・ビール等が良く売れ、売上高は昨年を上回った。客単価は下降気味だが、若干の客数増がそれを補う形で売上高をカバーできたようである。	
		農産物直売所	数年間のデータと比較しても変化はない。	
		専門スーパー	客数や売上げが増加したという実感が無い。	
		小売業(薬品店)	大手企業では景気回復しているというが、社員達の消費傾向は増加していない。客にまだ警戒感が感じられる。	
		タクシー運転手	仕事の回数に変化がない。	
		ゴルフ場	季節や天候等により、入客に増減はあるが、景気による影響ではないと思われる。	
		理・美容店	例年9月はやや売上げが落ちるが、今年は残暑の影響か、さほど売上げが落ちず良い方だったと思う。	
		室内装飾業	新築物件そのものが極端に少ない。仕事が忙しくても、単価が極力抑えられているから利益はでない。	
		住宅販売会社	ローコスト志向から、ハイコストでも高品質のものを求める傾向にシフトしている。だが、依然として景気に不安を持つ人が多く、特に将来に不安を抱える40~50代の消費行動が鈍い。	
		ドライブイン	客入りは例年通りである。	
		企業	農業関係者	好天に恵まれた上に、適度のお湿りがあり、全ての作物が順調に生育しているが、生産過剰気味となっている。
			製造業(窯業・土石製品)	地元鉄鋼企業の業績は堅調に推移している。時間外手当や賞与等の増額に伴い、個人所得も年々高くなっているように見受けられるが、景気の不透明感は払拭されていないため、消費面で個人の財布のヒモは依然固いように思う。
			製造業(金属製品)	変わらず高位置をキープしている。悪い情報もあまり聞かれない。鉄鋼業界に関しては昨年以上に良いと思う。
製造業(電気機械器具)	当社が所在する鹿島臨海工業地帯に関していえば、景気に大きな変化はないように思う。			
製造業(飼料製造)	3ヶ月前には少し改善の兆しが見えていたが、この夏は良くない材料が多く、景気は横這いで見ている。			
製造業(化学工業)	品薄感からか今のところ、原油高騰によるコストアップ分を製品値上げでカバーしつつ、生産量も維持しており、利益面での影響はない。			
非製造業(住宅設備施工業)	こまごましたリフォームや同業者の手伝い仕事が多いが、特に目立った変化はない。			
非製造業(金融業)	株価の上昇等で、全体には一見良くなっているように思えるが、地域別・業態別には厳しい状況が続いている。特に、原油価格の高騰が商品価格に反映されている。			
雇用	非製造業(金融業)	景気が好転する材料が見当たらない。		
	非製造業(不動産業)	出入業者及び客の話聞いても、景気が良くなったという話はきこえない。		
	人材派遣業	上場企業の生産状況及び設備投資は旺盛である。一方、地元中小企業については、依然として日常業務は多忙であるもの、単価を厳しく管理されているため厳しい経営状況にある模様。		
やや悪くなっている	家計	民間職業紹介業	求人については多少増加傾向にある。しかし、求職者については、企業の求めるスキルが以前より高くなっており、マッチングが難しい。	
		求人開拓員	事業所の話や求人状況から判断して、3ヶ月前と特に変化はない。	
		小売業(金物店)	客数・客単価が落ちており、一般客・工事店関係とも低調である。	
		スーパー	本当に必要なものだけしか買わなくなっているため、買上点数が減少している。	
		書店	商品を充実させても、社員教育を行っても客足が伸びず、売上げ減に歯止めがかからない。	
		スナック	夏休み中に子どもたちと行楽地に出掛けたため夏休み後は財布のヒモを締めているように思われる。家族連れや若者達は、食料や飲料を買って済ませてしまい、飲食店等への出入りが少なくなっているように思う。	
		観光型ホテル	客数、売上げ額が減少している。	
		小売業(菓子販売店)	暑さが続き売上げが伸びない。	
		タクシー運転手	売上げが伸びない。特に夜は、運転代行業者に客を取られてしまい、客数が減少している。	
		割烹料理店	観光客の数が年々少なくなっているため、食堂や飲食店の客も減少している。また、企業関係の夏の宴会を期待したが、今年はそれも少なかった。	
企業	パチンコ店	農繁期に入ったこと及び近隣に新店舗が開店したことにより、客数が減少している。		
	水産業関係者	燃料等の大幅な値上がりにより、生産コストが増大し、経営を圧迫している。		
	製造業(食品)	原料不足による値上がりや、原油高騰による資材の値上がりにより、収益は悪化している。		
悪く	家計	製造業(化学工業)	原油高騰の継続に伴い、主原料であるナフサの価格も上昇し、製品価格を上げる必要性を感じるようになった。	
		家電販売店	売上げが落ちている。家電製品を新規に購入するのではなく、修理で済ませる客が多い。	
		日本料理店	毎日市場に仕入れに行き、他店の様子を見ているが、毎日仕入れに来る店は少なくがらんとしている。	

(4) 県南地域【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	家計	商店街代表者	つくばエクスプレスの開業により、商店街に活気がでてきた。
やや良くなっている	家計	スーパー	買上点数の増加及び高額商品の買上が増えてきていることから、多少ながら売上げが増加している。
		スーパー	今年の夏は天気が良かったため、客数が増加した。また、例えば醤油でも品質の良いものが売れてきている。
		コンビニエンスストア	天候・気温の影響が強いが、売上げ・客単価とも増加している。客数も増加しており、人・金の動きが活発になってきている。
		衣料品・身の回り品販売店	昨年同月程度の売上げを達成している月が続いている。
		小売業（各種食料品）	売上げ・客数とも増加している。
		洋食食堂	来客数に大きな変化はないが、コース等の高額メニューの注文が増え、客単価が高くなってきたように感じる。
		都市型ホテル	今年の夏は天候に恵まれたため、ビアガーデンの売上げもある程度上がった。冷夏や天候不順の夏と比べると、景気は良くなったと思う。
		旅行代理店	1日の来店客数が増加している。また、企業からの申込みやリピーター客も増えている。
		ゲームセンター	仕事が忙しいと話してくる客が以前よりも多いと感じる。また、原油高騰でガソリン価格が急激に上がっているのに、消費者があまり大騒ぎしないのは、ある程度家計に余裕があるためなのではないか。
		レジャー施設	7～8月は比較的天気も良く、連休やお盆時期には来客数も増加した。
住宅販売会社	客数が増加している。		
建築設計事務所	公共工事が主力となっている。		
企業	製造業（食品）	8月は、夏休みにつくばエクスプレス開業記念イベントが重なり、沿線からの客も多くムードは大いに盛り上がった。売上げも少々だが上向きとなった。	
	製造業（一般印刷業）	前年の同時期と比較すると、売上げがやや伸びている。	
	非製造業（輸送業）	運賃及び保管料金の値下げ化の話があるものの、貨物の荷動きは以前より活発である。	
雇用	人材派遣業	受注量が増加している一方で、人材難が著しい。以前より人材が集まり難いことから推測して、景気は良くなっているのではないかと。	
	求人広告	夏をはさんで、求人数が増えた。またつくばエクスプレス開業後、沿線方面での問い合わせが増加している。	
変わらない	家計	スーパー	周辺地域では、世帯数が増加しているものの、増えているのは単身世帯が多いので、販売点数はあまり変わらない。また、1品あたりの単価は逆に前年を下回っている。
		コンビニエンスストア	昨年の夏は記録的な猛暑で、ソフトドリンクやアイスクリームを中心に良く売れた。今年はその反動もあり、対前年比では若干売上げが落ちたものの、魅力的な商品は価格が高くても売れているので、全体的な売上げには変化がない。
		農産物直売所	農協の購買品や農業用品に関しては、昨年と同程度の売上げである。生活用品に関しては若干伸びてはいるものの、昨年と同じ位である。
		洋食食堂	多少の増減はあるが、来客数はほぼ横這いである。
		和食食堂	平日はサラリーマンが、土日は家族連れが減少しているため、売上げが伸びない。
		旅行代理店	動きの有る人と無い人、両極端に思われる。
		タクシー運転手	1ヶ月の売上げが、平均40万円くらいで変わらない。
		タクシー運転手	営業回数・売上げとも、あまり変わらない。
		ゴルフ場	業種柄、収益が天候に左右されやすい。今年台風が多かったので心配したが、3ヶ月前と同程度の利用者があった。また、60歳以上の利用者も増加しているようだ。
		理・美容店	例年夏は、あまりヘアスタイルに重きを置かない時期だが、今年の夏は猛暑の上、まとまった休みも多かったため、来客サイクルが鈍かった。
企業	農業関係者	米の価格上昇が見込めず、農家の手取り収入についても明るさを感じられない。	
	製造業（食品）	ほぼ横這いで推移している。	
	製造業（食品）	景気は低い水準で変わらないと思う。	
	製造業（食品）	個人消費が上向いているという話は聞くが、製造業を取り巻く環境の厳しさは変わっていない。	
	製造業（コンクリート製造業）	原材料（特に原油）価格の高騰の影響が大きい。販売単価は上昇しているが、材料価格高騰分を吸収しきれていない。	
	製造業（一般機械器具）	仕事量に変化が見られない。	
	非製造業（建設業）	周辺の景気は依然として横這いの状態であり、受注も低調に推移している。	
	非製造業（不動産業）	良くなっている部門と悪くなっている部門、良くなっている地域と悪くなっている地域、売れる所（物件）と売れない所（物件）を平均すると、3ヶ月前と変わっていない。	
非製造業（金融業）	地域経済は公共事業に影響され易いが、その発注状況に変化がない。		
雇用	雇用相談員	スーパーの売上げ等に大きな変化は見られず、現状で推移すると思われる。運輸関係の荷動きは増加しているが、燃料高により収益が圧迫される状況が続くのではないかと。建設関係では、個人住宅の建設が低迷している。機械器具他の製造業は順調に推移しており、パート等の増員を回り回復基調にあると思われる。タクシー業界はあまり変化がなく、飲食店の利用状況等も目立った変化は見られない。	
	公共職業安定所	求人がやや増加し、求職が減少していることから、求人倍率は改善しているものの、産業別での求人を見ると増減があり、全般的には変化していない。	
	学校就業関係者	周囲の人達の生活ぶりを見る限り、変化はみられない。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	客単価が下がっている。
		自動車販売店	ガソリン値上げの影響で、大型車が売れない。また、新車・中古車を合わせても来店客が少ない。高級車のチャンネルがオープンしても話題が盛り上がらない。
		農産物直売所	天候の影響により野菜が昨年より安価なため、客単価が低下している。景気の良い時には1万円札での支払いが多かったものだが、今は小銭での支払いが目立つ。
		都市型ホテル	夏場は、宴会や婚礼の利用が少ないので、売上げが落ちた。宿泊に関しては、ビジネス利用が多いため良くも悪くもない状況だった。
		タクシー運転手	例年8～9月は売上げが落ち込むが、今年には特に対前年比で減収している。
		タクシー運転手	長距離利用の客がいなくなってきた。また、1日に10回程度しか営業できない日が多い。
		タクシー運転手	つくばエクスプレスが開業し、駅周辺に路線バスが運行するようになったため、タクシーを利用する人数が半分位になった。
		ゴルフ場	つくばエクスプレス開業による高揚感はあるが、つくばエクスプレス自体の認知度が低く、予約も伸び悩んでいる。
理・美容店	暑さのため、8月～9月前半は来店客が少なかった。		
企業	製造業（食品）	出荷高の低迷、中元商品金額ゾーンの低下（5千円 3～4千円が上限の傾向）等により、売上げが減少している。	
	非製造業（建設業）	受注が減少傾向にある。	
悪	家計	ガソリンスタンド	記録的な原油高が続いているが、それに相応した価格の値上げは難しく、ガソリンスタンドでは適正な利益を得られない状況である。客の方も、使用量を抑えているという話を聞く。

(5) 県西地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	-		
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	夏らしい天候・気温がプラスに作用し、客単価が上がっている。消費者は、価格に敏感に反応する一方、商品力をより重視しているようで、商品力の高いものが売上げを引っ張っている。
		ゲームセンター	ショッピングセンター内の店、路面店ともに、売上げが前年を越えている。
		レジャー施設	夏季期間中は天候にも恵まれ、各行楽地では例年になく賑わいを見せていた。つくばエクスプレス開通に伴い話題性も多く、県西地区では、商業施設が完成したり、道路や住宅地の整備等の開発が続いており、活気がある。
	企業	製造業（石材業）	施主から直接請けた仕事が入っているので、暫く忙しい。
		製造業（石材業）	9月は石材業界が最も忙しい時期である。
		製造業（化学工業）	例年この時期は、クリスマス商戦向けに上向く傾向があるが、電子材料・半導体関連製品が好調である。
		非製造業（建設業）	市町村合併に先立って公共事業の前倒しがあり、昨年よりも売上げが伸びている。また、自動車関連企業の設備投資も目立つ。
		非製造業（倉庫業）	物流の動きがやや良くなっている。また、土日のマイカー利用が増加しているように思う。
		非製造業（不動産業）	以前に比べて、高額賃貸物件に動きが出てきた。
	雇用	非製造業（広告業）	金額の大きな依頼が多くなっている。
		人材派遣業	食品・住宅関係企業の仕事が多い。
		公共職業安定所	求人数・求職数ともに減少しているが、求人数が増加しているため、結果的に景気の回復につながっている。
		学校就業関係者	昨年の9月と比べ、求人数がやや増加している。
	変わらない	家計	就職相談員
スーパー			特に良くも悪くもなっている実感が無い。
コンビニエンスストア			本当に必要なものや、他店と比較して得と感じた商品だけを購入する消費行動に変化はない。
衣料品専門店			周囲に農家が多いため、農家の収入が売上げに大きく影響する。今年の夏はキャベツが安値だったが、ジャガイモ・ナス・トマト・レタス等は案外良い値段で売れたらしい。
ガソリンスタンド			原油の高騰により、軽油・A重油等の産業用も相当上昇しているが、現在のところ受け入れてもまだ余力のある企業が多いように思える。また、一般個人のガソリン消費量も8月には前年を上回った。
洋食食堂			少し上向き傾向かと思っていたが、数字上は以前と同程度で推移している。
和食レストラン			客数や客単価は変わらない。ライバル店の出店で、集客競争は激化している。
旅行代理店			このところ、良いにつけ・悪いにつけあまり話題がない。
タクシー運転手			ここ数ヶ月、景気の良い話を乗車客から聞いていない。
タクシー運転手			つくばエクスプレスが開業する前まではやや上向いていたが、開業以降は逆に営業収入が1~2割減ってしまった。但し、これがつくばエクスプレスの影響なのかは不明。
企業		ゴルフ場	利用状況は変わらない。
		ゴルフ場	5月は大口コンベがあり来場者が増加したが、6~7月は反動で減少。8月は昨年の記録的な猛暑と同程度に来場者数が減少し、5月以降の累計では、ほぼ横這いとなった。
		農業関係者	農産物の販売状況は平年並みだが、資材が高騰しているため手取り収入は減少した。
		農業関係者	青果物価格が安いので、産地での廃棄等が見られる。
	製造業（食品）	原油高騰に伴い、燃料及び包装資材等の価格が値上がりしてしており、これが収益を圧迫している。	
	製造業（印刷業）	9月の衆院選と10月に行われる合併後の市長選を控えて、印刷業界においては多少の恩恵があったものの、会社関係や商店街等は相変わらず厳しい状況が続いているようだ。	
	製造業（金属製品）	受注量が変わらない。	
	製造業（電気機械器具）	客数、売上げともにあまり変化がない。	
雇用	非製造業（金融業）	事業所・商店街等の売上げは、ほぼ横這いである。	
	非製造業（コンサルタント業）	どの会社も変化が見られない。むしろ、売上げが減少している会社もあるくらいである。	
やや悪くなっている	求人広告	高齢者の求人はすぐに集まる。	
	家計	スーパー	1人あたりの買上点数が減少している。余分な買物はせず、生活防衛に走っている客が増加している。
		農産物直売所	来店者・客単価ともに減少している。
		都市型ホテル	8月中は利用客が少なかった。
		都市型ホテル	例年夏場はあまり客が多くないが、今年は例年になく少なかった。
		ドライブイン	ここ数ヶ月、売上げは前年割れが続いており、個人消費の冷え込みが大きい。
		ドライブイン	夏の団体旅行客や個人客も、例年より少なく感じた。
		パチンコ店	客数が減少している。
	建築設計事務所	企業の設備投資が先送りになっている。石油製品の値上がりで、建築材料の単価も高騰しており、建設工事を見合わせる傾向にある。	
企業	製造業（食品）	原料の高騰で製造単価が上昇し、利益が出づらい状況が続いている。また、ガソリン価格の上昇によって製品運搬費の負担も増加しているため、経費を引き締めなければならない。	
悪く	家計	専門スーパー	競合店が増加したこともあり、売上げは右肩下がりでいる。客は価格を良く研究しており、競合店より高い商品は売れない。売れるのは安い特売品のみである。
		クリーニング店	冬物の仕事が予想よりも少なかった。

景気の判断理由

2 景気の先行き判断理由

(1) 県北地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良	家計	観光型ホテル	忘年会シーズンに向かって、現在11～12月の予約や空室確認の電話が多い。
やや良くなっている	家計	小売業（靴製品）	幸い台風被害もなく、周辺農家が安心している。農家の収入が良ければ、店の売上げも上向くと思う。
		居酒屋	大災害やテロ等の社会的大事件が起きない限り、景気は好転していくのではないかと期待している。衆院選の結果、政治が安定すれば、景気にも良い影響がでると思う。
		観光型ホテル	景気の底上げが本当なら、県北地区も少しずつ良くなるのではないかと期待している。景気を動かすには、まず消費者のマインドが変わることが必須だが、微かながら光が見えるような気がする。
		ゲームセンター	アルバイトから時給が上がらず、転職する人の話を良くきく。就職もすんなり決まっているようで、求人は多数あるようだ。良い人材は福利厚生がしっかりした企業にどんどん流れている。
	企業	水産業関係者	地元の水揚げされる魚種（サバ・シラス等）によっては、少々ではあるが資源に復活の兆しが見られるので、秋以降の水揚げ量増加を大いに期待している。しかし、今以上に燃料価格の高騰が続くと、経営への影響が懸念される。
		製造業（食品）	例年、新米ができる時期には製品が良く売れる傾向がある。
		製造業（電気機械器具）	日立地区は地元の大手企業により景気を左右されるが、上半期と比べて回復傾向にあると思う。ただ、原油価格の高騰に伴う原材料等の仕入価格の値上がりが今後懸念される。
		製造業（電気機械器具）	海外物件は当分低迷が予想されるが、国内物件（発電所）の受注が増加する見込みなので、売上水準は従前程度に戻ると思われる。また、金融機関の不良債権が消化され、企業の設備投資計画（新規工場ではなく改修）が通るようになり、これに伴い受注が徐々に増加している。
		製造業（電気機械器具）	10月より新機種が更に生産増となる。
		非製造業（建設業）	市町村合併に伴い、事業対象範囲が拡大するので、商機も増加すると考えられるため、今まで以上に経営努力をしていきたい。
雇用	学校就業関係者	求人引き続き増加している。近隣高校への求人も多くなっているらしい。また、若年層の離職者も減っているように感じる。	
	人材派遣業	シフト制を取り込んで、稼働日数を増加させる企業が出てきている。	
変わらない	家計	商店街代表者	景気回復への好転材料・要素が見当たらない。
		スーパー	景気が変動する要因はない。
		スーパー	電気機器の業界は元気がある。食品業界は横這いか、米国产牛肉の輸入解禁等のアピール要因があれば少し上向くかもしれない。
		コンビニエンスストア	欲しいものしか買わないという傾向が依然として続いているため、買上点数が伸びない。
		コンビニエンスストア	景気が良くなる理由が見当たらない。
		スーパー	外的環境が大きく変化するというキッカケも見当たらないので、3ヶ月先も景気には変化はないと思う。
		家電販売店	12月から地上波デジタル放送が始まるので、関連需要が見込める。但し、その分高額商品が下落することは避けられないと思う。
		自動車販売店	今後販売台数が増加するとは思えない。
		農産物直売所	周囲で、景気の良い話は聞かない。
		レストラン	玄関をスロープ化したり、外装もリニューアルした。これが今後どのように売上げに反映するか楽しみにしている。しかし、周囲の飲食店は開店・閉店のサイクルが目まぐるしく、今後の見通しが立たない状況である。デパートの早期再開を切望している。
	スナック	ガソリン代値上げの影響で、客の小遣いが減少してきているのではないかと。これ以上、値上がりが進まないように願っている。	
	居酒屋	来客数等に大きな変化はないと思う。	
	観光型ホテル	予約状況からみて、一般宴会の利用が伸びていない。	
	旅行代理店	見積り単価が上昇しない。	
	タクシー運転手	企業が増収となる積極的な材料がないので、景気は現状維持ではないかと。	
	タクシー運転手	地元企業の利用者から、先行きの明るい話が聞こえてこない。	
	タクシー運転手	景気が上向いているという兆候が見当たらない。	
	ドライブイン	今の状況が普通で、このまま大きく変わらないと思う。	
	ゴルフ場	利用者に有利なキャンペーンを実施しているが、客の反応は鈍い。また、予約が遅くなっている。	
	レジャー施設	予算をかけてイベントを開催した場合以外は人が集まらないという状況が継続している。	
理・美容店	年末まで、特に変化の要素が乏しく、このままの状況が続くと思う。		
住宅販売会社	来店者数が変化する見込みがない。		
企業	製造業（一般機械器具）	好転・悪化要因とも顕著なものはない。	
	製造業（一般機械器具）	景気回復の兆しが見えない。	
	製造業（電気機械器具）	予想される業績数値に変化がおきるような情報がない。	
	製造業（電気機械器具）	年明けからは少しずつ出荷量も増加する見通しだが、年内については変化はないと思う。	
	非製造業（建設業）	受注状況や見積・入札状況、仕入単価の上昇等から判断して、景気は好転は期待できない。	
	非製造業（不動産業）	良くなると思われる要因が見当たらない。景気は回復傾向にあると言われるが、未だその実感はない。	
	非製造業（情報処理サービス）	雇用も増加しているようであり、徐々に良くなると思うが、まだまだ今の状態が続くと思う。	
	雇用	求人開拓員	求人が増加していることをもって、仕事が増加し、景気も回復に向かっていると勘違いしてはいけない。団塊の世代の退職者が出てきたので、補充していることも要因している。
家計	公共職業安定所	管内主要企業は、業況調査において先行きに期待感を示しているものの、依然として厳しい見方を変えていない。	
	衣料品専門店	郊外に大型店が開店するので、客の動向が変わるのではないかと懸念している。	
	小売業（酒類）	小売店では、大型スーパーやドラッグストア、ホームセンター等の販売価格に太刀打ちできない。客離れが進んでいくことを懸念している。	
企業	食堂	弁当や居酒屋等、外食産業の多様化で、食堂は苦戦している。	
	林業関係者	材木価格の低下傾向は今後も続くものと思われる。	
	製造業（電気機械器具）	樹脂・金属・ガソリン等の材料原価が値上がりしているにもかかわらず、製品価格に転嫁できないため、収益が圧迫される。	
	製造業（輸送用機械器具）	北米・中国市場の活況を受けて、生産量が増加している反面、原油高騰に伴う原材料価格の値上がり収益を圧迫する傾向は、今後更に拡大すると予想される。	
雇用	非製造業（金融業）	将来受注増に繋がるような設備投資等の話はあまり聞かない。また、原油高騰に伴い原材料価格が上昇する兆しもあることから、若干景気後退懸念が感じられる。	
	求人広告	現在の状況より良くなるという情報が聞こえてこないため、雇用に関しては一段と厳しくなるのではないかと。	
悪く	家計	小売業（土産物）	必要な品以外は、安くても売れない。
		タクシー運転手	夜間の飲食店客が減少しているうえ、代行の利用者が増加しているため売上げが伸びない。業界内で買収や閉鎖の話もあり、先行きが益々厳しくなるように思える。また、乗車客からも景気が良くなる材料がないとの声が聞かれ、先行きに明るさが見えない。
		クリーニング店	ガソリンの値上がりがかつては家計を圧迫し、クリーニング費用等にシワ寄せがくるのではないかと懸念している。

(2) 県央地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由	
良	企業	製造業(一般機械器具)	引き合い件数及び受注金額が増加している事から推定すると、この状況は今後も継続すると思われる。当社のユーザーを含め、大型設備投資が計画・実施されており、その為に市場環境が好転しているのではないかと。	
		非製造業(コンサルタント業)	衆院選の影響で、活気がでてきたように思う。政権がどうなるうとも、国内の改革は進むと思われる。	
やや良くなっている	家計	スーパー	少しずつ買上点数が増加している。また、高くても品質の良い物が動くようになってきた。	
		専門スーパー	秋の収穫が良好なので、景気はこのまま良い状態で継続すると思う。	
		都市型ホテル	忘年会シーズンになるので、活気がでてくると思う。	
		タクシー運転手	年末に向けて、商店街・飲食街が賑わう時期がくるので、乗客の増に期待している。	
		タクシー運転手	12月に入ると人の動きも多くなり、忘年会等により夜の飲食店へ行く人も多くなるため、乗客数も増加する。また、年内に仕事を片付けようと残業する人達のタクシー利用も見込めるのではないかと期待している。	
		タクシー運転手	景気が低迷していても、人の動きは四季とともに動くものなので、農繁期を過ぎ、旅行シーズン、更に年末に向けて盛り場になると期待している。	
	企業	観光名所	イベントや催事も多く、1年のうちで、最も人出が多い時期なので、売上げ増を期待している。	
		パチンコ店	ここ数ヶ月、対前年度比数%だが売上げに伸びが見られる。この傾向は今後も継続すると思われる。	
		建築設計事務所	依頼を受けた業務が半年以上はかかるので、今年度内は忙しい。	
		製造業(金属製品)	衆院選が終わり、新しい内閣による安定した政策が実施されれば良くなると思われる。	
		非製造業(輸送業)	年末に向け貨物は活発に動くと思われる。他方、石油高騰分を吸収するため、輸送方法の変更等を早急に検討する必要がある。	
	雇用	人材派遣業	受注残の入れ込みが進み始めた。	
学校就業担当者		来年度の雇用状況は今年度と比べて更に回復基調になるようなので、景気も今年度後半から上向きになっていくと予想される。		
変わらない	家計	商店街代表者	衆院選の結果によっては、景気に良い変化があるかもしれないと期待している。	
		商店街代表者	最近、商店街に人通りが少なくなっていると感じる。依然として消費者に買い控えの傾向があり、小売業には厳しい状況である。	
		百貨店、総合スーパー	冬季賞与を含め個人所得の増加は見込めず、また企業の経費抑制も続くと思われ、冬物販売や歳暮商戦は例年並に推移すると思われる。一方、郊外型ショッピングセンターの開店により、中心市街地への集客は更に厳しさが予想される。	
		スーパー	各店舗で様々な改善施策を実施しているが、即効性のある対策はなかなかない。消費者の買い控え傾向は依然として続いているように思う。	
		コンビニエンスストア	景気が良くなる要素が見当たらない。	
		コンビニエンスストア	基本的に金を使わない人が増えているように感じる。新しいことや、今までにないことを仕掛けないと消費は増えないと思う。	
		自動車販売店	現状のまま、厳しい状況は続くと思われる。	
		農産物直売所	秋の行楽シーズンは、人出も売上げも伸びる時期なので、期待している。	
		レストラン	予約受注の状況は例年並である。	
		レストラン	年末に向けて、客の動きは変化(増加)すると思われるが、客の動きは、ボーナスの支給状況に影響される。	
		都市型ホテル	3ヶ月先までの予約状況等を見ても、忘年会等の予約が伸びておらず、まだまだ厳しいと思う。	
		観光型ホテル	今後は繁忙期からシヨルダ期に入るため、余り大きな変化は見られないと思う。	
	タクシー運転手	最近の客は、あまり景気の話などしない。「景気は悪い」で定着してしまった感がある。		
	ドライブイン	団体客の予約も入ってきているが、ガソリンの高騰が影響し、県外客の足が遠のくのではないかと心配している。		
	ゲームセンター	先行きが不透明で、判断が難しい。		
	理・美容店	3ヶ月程度で景気に変化はないと思う。		
	企業	農業関係者	青果物の価格が低位安定基調なので、石油製品価格の値上がりの影響を心配している。	
		製造業(食品)	選挙後に創設される新しい政府が、郵政問題だけでなく、景気対策を今後どのように進めていくのか、期待をもって注視したい。	
		製造業(出版・印刷業)	例年の動きからみて、特別な受注がなければ変わらないと思う。	
		製造業(出版・印刷業)	特に目立った要素がない。	
		製造業(土石製品)	現在の受注状況を見ると、悪いまま変わらないと思われる。	
		製造業(一般機械器具)	変わらないで欲しいと思うが、何か変わり始めているような気がする。	
	雇用	非製造業(建設業)	衆院選の結果が景気に与える影響を懸念している。福祉関連企業は、厚生労働省がどのように動くのが固唾を飲んで見守っている状況である。郵政民営化問題の今後の展開も、景気に大きな影響を与えるのではないかと。県内では、3ヵ月後のつくばエクスプレスの経営見通しが気になるところ。	
		非製造業(金融業)	原油価格の高騰等の懸念材料はあるが、当面は現状維持で推移するものと思われる。	
		求人開拓員	原油高の影響が、地場産業に大きく、特に物流関連に顕著に現れている。	
	やや悪くなっている	家計	求人広告	今秋から年末にかけて、新しい商業施設がオープンするが、出店するのは地元企業ではないので、地域の景気が良くなると思えない。但し雇用の部分では、社員・パートが2,000人程度、物流・警備・清掃関係でも人員が必要になるので、雇用が促進され、地域の人々の収入が増えると思う。
			公共職業安定所	7月の有効求人倍率は0.86倍で、対前年比28ヶ月連続で増加しており、雇用情勢は回復に向かっている。だが、10月のダイエー水戸店閉店により、今後大量の失業者が生じることが見込まれる。
百貨店、総合スーパー			内原イオンモールがオープンすると、間違いなく水戸駅前市街地は大きなダメージを受けるだろう。少なくとも、衣料品の購入については百貨店へ足を向けてくれることを期待したい。	
スーパー			増税やガソリンの値上がりの影響で、消費者がますます金を使わなくなると思われる。	
スーパー			赤塚駅前に2つの大型店が出店する影響で、近隣では閉店するスーパーが相次いでいる。駅周辺に居住する高齢者からは、逆に買い物が高くなり不便だという声が聞かれている。	
専門スーパー			取引先、出入り業者の話も聞いても良い話は出てこない。	
企業		ファミリーレストラン	今後も益々原油価格の高騰が進むと予想され、物価は上昇傾向になると思われる。	
		ゴルフ場	予約申込件数が伸びない。また、原油価格の高騰に伴い、取引業者から材料費等の値上げ申込みが出されている。	
		レジャー施設	原油高で、ポート・ヨットの燃料価格も高騰し、利用を差し控える客が増えることを懸念している。	
		レジャー施設	石油価格の上昇により、自家用車の利用が減少すると思われる。今後は、レジャー等の娯楽費を控える傾向になってくるのではないかと懸念している。	
悪	家計	製造業(食品)	今後じわじわと原油高の影響が出てくると思われる。	
		割烹料理店	水戸駅北口商店街では、空テナントが目立ってきた。今秋にはダイエー水戸店も閉店するし、駅南や笠原方面へ移転する企業も増えている。自治体が人口を増やす努力とアイデアを考えないと市内はダメになると思う。	
		理・美容店	原油高騰による影響を懸念している。ガソリンや石油の値上がりばかりでなく、これから様々な形で生活を圧迫してくるのではないかと。	

(3) 鹿行地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由	
良	家計	スーパー	今のところ、災害等にも見舞われず、地元企業の景気も良いと聞く。健康に気を使う客が増え、関連商品が良く売れている。韓流スターをキャラクターにした商品も良く売れている。	
やや良くなっている	家計	商店街代表者	企業も活況を呈し、雇用も改善されている。	
		コンビニエンスストア	今年は企業賞与の支給状況も概ね良好で、消費が次第に拡大しているように感じる。年末にかけて、冬季ボーナスに期待したい。	
		スナック	年末年始頃には、多少動きがあるのではないかと。	
		タクシー運転手	例年、年末になると客が増加する。	
		洋食食堂	駐車スペースを拡張したことは、女性客の利用時に好評である。十分な駐車場の確保は、集客の大きな条件の一つだと思う。	
		日本料理店	予約が1~2日前まで決まらず、1週間の動きも掴み難い状況だが、今後3ヶ月が1年で一番売上げの伸びる時期なので、これからの予約の入り方を期待している。	
		クリーニング店	年末にかけて、今よりは忙しくなると思う。	
	企業	製造業(食品)	おせちや歳暮等の年末商戦に期待している。	
		製造業(金属製品)	3月期決算も上方修正になっており、製造ラインもフル生産で操業中である。	
		非製造業(輸送業)	秋口から年末までは、貨物は入庫・出庫とも活発に展開していく時期である。それに伴う駆け込み需要も発生すると見込まれる。在庫量は既に昨年を上回っている。	
非製造業(金融業)		市内のビジネスホテル等は、ほぼ満室の状況が続いている。当地に営業所や工場のある企業は好調と判断できる。それが、地元の事業者には反映されれば、地方景気も徐々に上昇するのではないかと期待している。		
非製造業(金融業)		新米の価格が、昨年よりも1,000円程度上昇している。		
変わらない	家計	小売業(金物店)	合併直後で、動きが停滞気味に感じられる。米価も昨年度並らしいので、周辺農家による売上げも期待薄のようだ。高品質・専門的な商品については、大型店から客が戻りつつあるものの、売れる商品が限定されている。	
		商店街代表者	衆院選の結果によって、景気に良い影響がでることを期待したい。	
		小売業(酒類)	ビールに関しては、びんケース売りの販売は減少している。一方、飲料や発泡酒、雑酒のケース販売は増加している。この傾向は今後も変わらないと思われる。	
		農産物直売所	変化する要素はない。	
		スーパー	現在が景気の底であり、今後しばらくは現状維持が続くと考えられる。	
		家電販売店	景気が好転する要因がない。	
		自動車販売店	地元の大手企業が好況のため、仕事は増えているが刹那的な感が否めない。不景気感が抜けきっている訳ではなく、将来への不安は払拭しきれていない。政治の安定が望めず、税金の今後が不透明なため、必要に迫った引合いといった感がある。	
		専門スーパー	特に良くなる要素が見当たらない。	
		小売業(薬品店)	石油関連製品を中心に、今後様々な商品の原価が上昇することを懸念している。	
		タクシー運転手	企業の景気は良くなっているようだが、タクシーの乗車客数には反映されていない。	
		ゴルフ場	今のところ景気が変動しそうな様子は見られない。	
		理・美容店	客の様子からは、変化は見られない。	
		室内装飾業	先行きが不透明で、まだまだ景気が上向きになっているとはいえない。	
		サービス業	全体的には大きな変化はないと思われる。	
		住宅販売会社	景気は上向いていると感じるが、あまりにもガソリン価格が上昇している。また、金利が上昇基調になっているため、客の購買意欲が削がれるのではないかと懸念している。	
		住宅販売会社	短期間で景気が改善する具体的な材料が見当たらない。	
		ドライブイン	ガソリン価格の値上がりにより、自動車で旅行する人が減少するのではないかと不安はあるが、現在のところ客数には影響していないので、当面変化はないと思う。これから新米の時期を迎えるが、米は単価が高くて売行きは好調なので、売上げに期待したい。	
		企業	製造業(窯業・土石製品)	運搬・作業用重機の燃料である原油の高騰、ゼネコン談合問題による公共事業の受注会社取引量の減少も予想され、販売高の減少並びにコストアップが予想される。
			製造業(食品)	石油高騰の影響が心配である。
	製造業(電気機械器具)		従来は10月~12月は繁忙期なので景気も上向くと思いたいですが、原油高騰に伴う軽油の値上がりで損益に大きく影響している。事情を考慮して、顧客も単価値上げを容認してくれたが、それでもまだ足がでてしまう。	
製造業(飼料製造)	業績の足を引っ張る問題に解決の見込みが立たないため、景気が良くなると思えない。			
非製造業(住宅設備施工業)	9月に入って、益明けよりも見積りが減少しているが、大きくは変化しないと思われる。			
非製造業(不動産業)	現在の景気に良くなる気配がないので、3ヶ月先の見通しは変わらないと思う。			
雇用	人材派遣業	設備投資は盛んになっているが、人材派遣については大きな変化はない。しかし、安全管理、電気・機械の技術者、仮設事務所の一般事務等の需要は少しずつ出始めている。		
	民間職業紹介業	企業の求めるスキルが以前より高くなっているため、求人・求職のマッチングが困難な現在の傾向は当面続くと思われる。求職者のスキルを高め、求められる人材を確保することが今後の課題である。		
	学校就業関係者	良い話も悪い話も聞かない。		
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	原油値上がりの影響が、今後様々な分野に出てくることが予想され、結果として景気は悪化するとと思われる。	
		観光型ホテル	予約件数が少ない。	
		小売業(菓子販売店)	ガソリンの値上がり徐々に効いてくると思う。	
		パチンコ店	客の全体数が減少しているだけでなく、客単価が落ちている。競合店の出店等、今後も良くなる要因がない。	
	企業	農業関係者	野菜類を直売所に出しても、季節柄同一作物が多量に出回っており、売れ残りが大量に出てしまう。また価格競争が厳しく、利益ゼロの状態、豊作貧乏の気配が濃厚である。	
		水産業関係者	燃料等の大幅な値上がりによる生産コストの増大が、次第に表面化し、経営に悪影響を及ぼすのではないかと懸念している。	
		製造業(化学工業)	このまま原油高騰は続くと思われる。今のところ売上げへの影響は少ないが、今後製品の値上げに伴い、発注量が減少するのではないかと心配している。	
		製造業(化学工業)	更なるコストアップとなれば、値上げ交渉は厳しさを増し、利益面での影響も懸念される。この先は、原油動向次第で不透明。	
	雇用	公共職業安定所	原油高騰の影響がでてくるのではないかと懸念している。	
		求人開拓員	原材料価格の高騰は避けられないが、その分を上乗せした料金改定が出来ない企業が多いようである。	
悪	家計	割烹料理店	農繁期に入るため、客数は減少するとと思われる。	

(4) 県南地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良	家計	商店街代表者	つくばエクスプレス開業に伴う活況は、しばらく継続すると思われる。
やや良くなっている	家計	スーパー	買上点数の増加や高額商品の買上が増える傾向は、今後も継続すると見込まれる。
		衣料品・身の回り品販売店	現状では売上げが右肩上がりなので、今後大きな天候不順等の影響がなければ景気も上向いていくと思う。
		家電販売店	年末になると、地上波デジタル放送が本格的に始まるので、消費者の購買意欲は高まると考えられる。今後、家電業界の景気は良くなっていくのではないかと。
		小売業(各種食料品)	つくばエクスプレス沿線の工事が継続しており、関係者による売上げが今後も期待できる。
		洋食食堂	時期的にも多くのイベントを控えているので、需要は増えていくと思われる。
		洋食食堂	現在、10月の予約が多数入っている。また、年末にかけては忘年会やクリスマス等、1年を通じて最も売上げが伸びる時期なので期待している。
		都市型ホテル	つくばエクスプレス開業後、駐車場利用や買物客数が以前より増加した。今後もこの効果で、県南地区の景気は良くなると見込んでいる。
		都市型ホテル	年末に向けて、婚礼や宴会等の予約も入ってきており、売上げも上がると見込まれる。宿泊については、あまり変わらないと思う。
		旅行代理店	秋の行楽シーズンや年末年始の帰省シーズンを前に、やや良くなっていくのではないかと。また衆院選の結果が、社会・経済に良い影響を与えてくれることを期待している。
		ゲームセンター	単価は高くないが、確実に客数は増加している。つくばエクスプレス開業により、流通そのものが大きく変化しているうえ、つくば市への移住が促進され、人口増加に伴い潜在顧客が増加することを期待している。
		レジャー施設	9~10月も連休が続くので、集客に期待している。
		理・美容店	気候と季節に左右される仕事なので、秋口以降は多少良くなると思う。
	住宅販売会社	つくばエクスプレス開業に伴い、住宅需要は今後も増加すると見込まれる。	
	建築設計事務所	公共工事の予定が入っている。	
	企業	製造業(食品)	売上げは微増だが、業務改善等で企業の業績はよくなりつつある。また、これから年末に向けて、歳暮等の季節的な要因もあり、景気はやや良くなると思われる。
		製造業(食品)	つくばエクスプレス開業により、新しい街としてのつくば市へ関心が高まっている。また、10月に開催されるウェルカムイベントにも多くの集客が見込まれること等から、つくばエクスプレスの経済効果を期待している。
		製造業(食品)	年末時期なので、客数・客単価とも増加すると思う。
		製造業(一般印刷業)	これから年末にかけて、印刷業界は年度末に次ぎ繁忙期に入るため、売上げも増加すると見込んでいる。
		製造業(一般機械器具)	クリスマス商戦に入るため、一時上向くと思われる。
製造業(金属製品)		顧客の在庫調整も一段落し、今後の受注増が見込まれる。	
非製造業(建設業)		つくばエクスプレスの開業に伴い、沿線開発に拍車がかかれば、建設業界の景気も良くなるのではないかと。	
雇用	人材派遣業	受注残をこなすだけでも売上げ増が見込める。但し、人材難は今よりひどくなるのが予想される。	
	雇用相談員	現在、原油高が続いており、景気のマイナス要因となっている。運輸関係等の急速な回復は望めないが、これまでの企業努力もあり、製造業を中心に少しずつ好転へ向かうものと思慮される。	
	求人広告	年末に向けた募集が増加している。	
変わらない	家計	スーパー	客数は増加しているが、客単価は低下しているため、全体としては変わらないと思う。
		コンビニエンスストア	特に景気が良くなる要因もないので、客の消費行動は変わらないと思われる。
		コンビニエンスストア	現状では良くなっているが、この状況は長く続かないと思う。但し、悪くなる要素も見当たらない。
		自動車販売店	ガソリンの値上がりはまだ続きそうなので、売上げへの影響を懸念している。
		農産物直売所	3ヶ月先では景気が良くなると思えない。現状維持だと思う。
		寿司店	仕入れ先で同業者と話していても、閉店や経営者の交替等、良い話は出てこない。
		旅行代理店	愛知万博に代わる牽引力のある商品がでてこない限り、売上げは現在と変わらないと思う。
		タクシー運転手	12月は、1年中で最も売上げが伸びる月なので期待したいが、景気が良くなっていくような話がほとんど聞かれない。
		ゴルフ場	つくばエクスプレス開業による利便性をPRしたいところだが、つくばエクスプレス自体の認知度が低く、効果がでるまでには暫く時間がかかりそうである。但し、沿線開発が急ピッチで進んでいるので、後は集客等に期待が持てると思う。
		ゴルフ場	予約は、相変わらず料金安い日に集中する傾向がある。
		理・美容店	つくばエクスプレス開業に土浦駅周辺市街地は危機感を持っている。各業界及び地域全体で施策を講じていかなければならない。
		企業	農業関係者
	製造業(食品)		一部には伸びている商品もあるが、市場全体としては微減の傾向にある。
	製造業(コンクリート製造業)		原油価格の先行き不透明感により、景気に変化は見られない。
	非製造業(建設業)		年末にかけて、受注は多少増加すると見込まれるが、売上げは対前年比と同程度だと思う。市町村合併に関連した受注に期待したい。
	非製造業(輸送業)		荷動きが例年通りあるか現時点ではわからない。貨物の動きが止まってくると、工場も生産調整して稼働するので、全体的に停滞すると思われる。
	非製造業(不動産業)		つくばエクスプレス開業の影響がでるのは、半年以上先になると予想されるので、年末までは大きな変化はないと思われる。
	非製造業(金融業)		公共事業の発注状況に変化がないため、将来的にも変わりないと思われる。
	雇用	公共職業安定所	企業の事業展開や事業所閉鎖等、一部に動きはあるものの、特段の変化はないと思われる。
学校就業関係者		株価等を見る限り、景気は上向いているように思われるが、これは短期的なもので未端までは波及してこないと思う。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	原油高によるガソリン代の上昇が、ジワジワと商品原価・仕入価格に影響しつつある。また、家計へのしわ寄せの結果、客の来店回数も減るのではないかと心配している。
		スーパー	石油の値上がり、今後収支にどう影響してくるか心配している。
		農産物直売所	野菜の価格低迷傾向がしばらく続くと思われる。また、新米の遅れも影響が心配である。
		和食食堂	つくばエクスプレス沿線が開発されるにつれ、つくば市へ客足が流れ、土浦市近辺の商店街が開散としている。
		タクシー運転手	大企業や役所関係のタクシーチケットの利用が少なくなっている。今後もこの傾向は変わらないと思う。
		タクシー運転手	中小企業経営者やサラリーマン等が、不況感から抜け出せていないと思う。
		タクシー運転手	飲食店の客減少や代行利用者の増加により、夜間の利用者が増えない。
	タクシー運転手	つくばエクスプレスの沿線開発に伴う交通路線の整備が進むにつれ、タクシーに乗車する人の数は減っていくように思う。	
企業	製造業(窯業・土石製品)	衆院選の結果、改革が進み株価も上がると思われるが、原油高騰が冬物商戦に相当大きく影響してくると懸念している。	
悪く	家計	ガソリンスタンド	原油高は3ヶ月程度では安定しないと思われる。少なくとも半年位はこの状態が続くのではないかと。
		製造業(食品)	重油や原材料価格の値上がり等、年末に向けて良い材料がない。加えて、販売価格への転嫁も難しい。
	企業	非製造業(建設業)	先の見通しが全く立たない。営業努力にも関わらず物件が乏しく、500万円以上の引き合い、見積り等がほとんどない。このままでは税金も払えなくなるのではと危惧している。

(5) 県西地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	-		
やや良くなっている	家計	衣料品専門店	周囲に農家が多いため、農家の収入が売上げに大きく影響する。新米は豊作で、流通価格も昨年より2千円程度高いようなので、今後の売上げに期待したい。
		農産物直売所	現状では企業の業績も良好で、冬季賞与もやや良くなりそうなので、売上げ増を期待している。但し、原油価格の上昇がどう影響するか心配である。
		都市型ホテル	宿泊者はやや好転しているし、年末にかけては行事・イベントが多いので、売上げも上向いていくと思われる。
		旅行代理店	求人しても、あまり申込みがこないで、失業の方も落ち着いてきたのではないかと。
		タクシー運転手	8月はタクシーの売上げが最も落ち込む時期なので、今後は少しずつ景気も良くなっていくのではないかと。
		ドライブイン	秋の旅行者に期待している。
		ゴルフ場	昨年の秋は台風の直撃でクローズの日が多く、大幅な来場者数減となった。今年は、今後の天候次第だが、昨年程の被害はないとの予測から、来場者数の増加を見込んでいる。
	レジャー施設	つくばエクスプレス開業に伴い、商業施設や住宅地の整備等、新しい街として開発が続き、秋葉原からつくば地区への新しい利用者が増加することにより、経済効果が生まれると期待している。	
	企業	製造業（印刷業）	自動車関連の下請け企業では受注が増加しているらしい。受注単価が毎年低下し、利益率が下がることに苦慮しつつも、活況を呈す地元企業が増えている。
		非製造業（倉庫業）	この度の選挙結果により、政治が安定すれば、経済にも良い影響がでるのではないかと期待している。
非製造業（不動産業）		来客が増加しているが、この傾向は今後も続くと思込まれる。	
雇用	人材派遣業	食品・住宅関係の仕事量が多くなってきている。	
	求人広告	9月上旬に求人応募が多数あった。	
変わらない	家計	コンビニエンスストア	消費者の購買意欲が向上には心理的な要因が大きく、将来の所得等について安心できるようにならない限り変わらないのではないかと。
		コンビニエンスストア	特売品のみを買い廻る傾向は依然として続いており、今後も消費環境は大きく変化しないと思われる。
		洋食食堂	来店客や出入り業者からも、景気の悪い話は聞かない。
		和食レストラン	周囲に大手飲食店の出店が増え、ますます流行り・廃りの二極化していきそうである。資本力では大手に太刀打ちできないので、工夫を凝らした営業努力が必要だと思う。
		都市型ホテル	衆院選の結果が今後の社会・経済にどのような影響があるのか気になる。また、原油高騰がいつまで続くのかも注視したい。
		タクシー運転手	夏がすぎると、お祭りやお盆などの大きな行事がないので、それほど忙しくなるとは思われない。
		タクシー運転手	つくばエクスプレスの開業により人の流れが大きく変わってしまい、先が読みにくい。地元商店街等には良い影響があると思うが、ビジネスマンはつくばへ流れてしまうため、タクシーの収益は減少するかもしれない。
		ゴルフ場	予約状況は変わらない。
		ゲームセンター	原油高に起因して物価上昇の不安があるため、これ以上消費が伸びることはないと思われる。
		理・美容店	客の来店サイクルは毎年ほぼ同じで、大きな変化はないように思う。
	住宅販売会社	今後も変わる要因がない。	
	企業	製造業（食品）	今後しばらく原油高は続くと思われ、これから冬場に向かい燃料及び石油関連製品が高騰すると思われる。
		製造業（石材業）	墓石卸売業はサイクル的に谷の時季だが、首都圏では上向いているようなので、地域への波及を期待したい。
		製造業（化学工業）	一部メーカーの携帯電話やデジカメ等は、受注が増加しているものの、10～11月頃までは今と同じ状況が続くと思われる。
		製造業（電気機械器具）	今後も、特に変化する要素が見当たらない。
		製造業（印刷業）	現状を維持するのが精一杯で、将来の展開が見えてこない。
		非製造業（建設業）	景気は上昇気味と報道されているが、中国の景気や原油高騰による影響が懸念される。
		非製造業（金融業）	設備投資等が増える見込みは少なく、景気が上向くとは思えない。
		非製造業（広告業）	衆院選の結果や原油高の行方が不透明で、景気にどう影響するかわからない。
非製造業（コンサルタント業）	あまり変化しないと思われる。		
雇用	学校就業関係者	機械部品（特に自動車部品）の製作会社を中心に、求人数は昨年より増加しているが、原油高の影響で相殺され、全体としては変化がないと思われる。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	衆院選の結果次第によって、増税の見通しが強まると一時的に消費が落ち込むと思われる。
		自動車販売店	原油高騰により、各製品に影響が出ると思われる。
		ガソリンスタンド	ガソリンは9月も値上げ、10月以降も石油製品の価格は上昇すると思われる。特に冬場の灯油は、個人ユーザーの財布をかなり圧迫すると予想される。
		和食食堂	固定客の流れを見ても、1ヶ月の食事回数が減っているように思われる。
		ドライブイン	団体客が少ないため、土産物の売上げ減少が激しく、回復はかなり厳しいと思われる。
		パチンコ店	茨城県では行政指導により手放し遊技が禁止になったため、ますます客足が遠のくのではないかと心配している。
	企業	農業関係者	石油の値上がりにより、生産資材が益々高騰することが予想される。
		製造業（食品）	ガソリン価格や原料単価の値下げが当面見込めない。
		製造業（金属製品）	受注量が減少している。請負価格を下げないと、受注できない。
	雇用	公共職業安定所	原油価格の変動により、物価上昇があれば、消費に影響すると思われる。
悪く	家計	スーパー	国が増税の方向に動いている様子なので、個人消費は活発化しない。
		専門スーパー	競合各社との競争が激化し、未だ浮上のきっかけが見えない。策を打つにも経費がかかり、見返りも少なく厳しい状況である。
	クリーニング店	原油価格の高騰により、材料や溶剤等も値上がりしており、経営を圧迫している。	
企業	製造業（石材業）	12月はシーズンオフであり、稼働日数も少ないので、売上げは減少すると見込まれる。	

景気の判断理由

3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関係	商店街代表者	都市対抗野球大会に地元市が出場し、3回戦まで善戦した。応援隊の移動費用等が、景気回復の一助になってほしいと思う。
	スーパー	人の流動に元気をを感じる。雇用が安定し、活力が戻れば、購買力も戻ると思う。
	コンビニエンスストア	アウトレットショップに行ったが、以前よりも客数が減ったように感じた。本当に欲しいものしか買わないという消費傾向がここにも現れていると思った。
	農産物直売所	近くにスーパーが多いので、特売日には客足が落ちている。
	小売業（酒類）	大手企業が夏休みのため、地元商店街の人通りが少なかった。特に飲食店は企業に併せて連休するところが目立った。
	小売業（土産物）	石油の高値が続いているが、配達のカソリン代をはじめ、ナイロン袋やビニルバック等の経費も価格転嫁できず、収支を圧迫している。
	居酒屋	単価が高くても、品質が優れているものは、販売数が増加している。
	食堂	十王駅が改築され、日立駅も2年後に新しい駅舎が建設されるらしい。また、日立駅を中心としてマンション建設も相次いでいる。これらが県北地区の景気に良い影響を与えることを期待している。
	観光型ホテル	衆院選の結果、郵政をはじめ税制や年金等の改革がどのように行われるかで、景気は大きく左右されると思う。
	観光型ホテル	料金や当日の天候だけでなく、アクセス道路や施設の混雑具合も、ホテル利用の際の条件として考えているようだ。
	タクシー運転手	都市対抗野球への出場により、バス会社等は売上げが増加したようだが、タクシー業界までその影響は波及してこなかった。
	タクシー運転手	乗客と話していると景気の話になるが、悪い話しか出てこない。
	ドライブイン	市町村合併で公共事業の件数が減少する一方、1件あたりの入札参加業者は増加するため、地元の中小企業は落札が益々困難になっている。
	ゴルフ場	薄暮プレーの客が増加している。
	レジャー施設	滞在時間が長い方が、短い客より客単価が高いとはいえない。
理・美容店	県北地区は公共事業が少なく、近所の企業では仕事がないとぼやいている。自宅近くの大きな工場もあまりぱっとしないようだ。	
理・美容店	伊勢甚デパート閉店後の、市街地再生への道筋が全く不明。税金滞納等の問題があって進捗が遅れているとの噂も聞くが、早く解決して客の呼び戻しを図ってほしい。	
企業関係	水産業関係者	漁船は全てエンジンにより稼働しているため、燃料の値上がりは直接経営に反映される。現在市価で、魚の価格が大きく値上がりしていないのは、燃料の高騰分を漁業者が負担しているからである。今後もこの状況が続くと、採算面でかなり厳しいと思う。
	製造業（食品）	流通業界の再編が始まり、系列化が進んでいる。
	製造業（一般機械器具）	日立駅前を中心にマンション建設が著しい。また、大規模な商業施設の着工予定もあり、景気浮揚には良い話だと思う。
	製造業（電気機械器具）	衆院選の結果と原油価格の高騰が、今後生活にもたらす影響についての会話を最近よく耳にする。
	製造業（電気機械器具）	石油値上げの影響が様々な所で出始めている。特に運送関係は経営にも非常に厳しいようである。
	製造業（電気機械器具）	大規模な生産設備を取り込む企業の話が多く聞かれるようになった。
	非製造業（建設業）	衆院選の結果、官から民への流れが加速され、地域の経済にも良い効果があってほしいと思う。
	非製造業（不動産業）	中堅勤労者が不足しているのか、経験者の中途採用・募集が目につく。
雇用関係	学校就業関係者	夜間営業のスーパーで、値引された食料品を購入する人が以前より少ないように感じる。また、日立地区ではマンション建設が活発であり、入居者も多いようだ。
	求人開拓員	派遣会社の求人が増加している（特に製造業関係）。その結果として、管理・折衝能力も有る管理者の需要が高まっている。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関係	商店街代表者	自分の業界では一向に良い話は聞かれないが、向かいの住宅メーカーは先月に自社ビルが新築完成し、隣では今月から改築工事が始まった。決して景気が悪いとばかりはいえないのかなと思う。
	商店街代表者	ダイエー水戸店の10月末閉店の発表に、周辺商店街は大きく動揺している。ダイエー以外にも、駅前商店街で大型店閉店の噂があり、内原イオンモールのオープン後、商店街では大きな問題となりそうである。
	百貨店、総合スーパー	現在、秋物を展開中だが、流行を取り入れたデザインやカラー等はいち早く動きを見せている。新しいものへの反応は敏感である。
	スーパー	大手スーパーの出店が本格的に始まった。生き残りを掛けた戦いがいよいよ始まったという感じである。
	コンビニエンスストア	インスタント食品等、単価の安い食品を買う人が多い。またセールに対してはとても敏感で、スーパーのセール等は人だかりができています。
	自動車販売店	ガソリン価格の値上がり、公的年金支給年齢の引き上げ、地震や災害に対しての不安等、明るい話題がない。
	農産物直売所	東京から毎月のようにゴルフに来て、帰路2万円以上買物をしていく客がいる。所得の二極化とよく言われるが、地方では関係が無い。
	専門スーパー	灯油の販売を行っているが、消費者は価格の動向に敏感になってきている。これから、需要期に入るので、石油関連製品の価格が気になる。
	観光型ホテル	料金の二極化が見られる。同じ品質なら安い方を選び、ニーズがあれば高くても売れる。
	旅行代理店	小さなことでクレームを付ける客が多くなったように思う。
	タクシー運転手	病院への通院客は、往きはタクシーを利用し、帰りはバスを利用する傾向があるように見える。
	タクシー運転手	「水戸中心市街地（南町・泉町周辺）がもっと活気のある、街づくりをしてほしい」という話を客から聞く。
	タクシー運転手	タクシーには様々な業種の人が乗車するが、大手車販売会社の人は、うちはやや良い方かなと話していた。一方、住宅販売会社の人は、去年と変わらないと言っていた。概ね変わらないという客が多いように思う。
	タクシー運転手	タクシー業界は、新規参入業者が増加し、需要と供給のバランスが崩れ、車余りの状態である。不景気のため、一部では値崩れも起きているようだ。規制緩和の流れの中で、かつては投資として新規参入する業者が多かったが、今は現状が苦しいゆえの参入が増えているような気がする。
	ゴルフ場	ガソリン値上げの影響か、乗用車に相乗りで来場するプレイヤーが多く見られるようになった。
	ゲームセンター	ダイエー水戸店の閉店、赤塚駅前開発、内原イオンモールのオープン等により、水戸駅北口が空洞化するのではないか。また、ガソリン価格がどこまで値上がりするかも心配である。
	レジャー施設	飲食物の持ち込みのほか、割引券の利用や土産物の値引き交渉等、いかに費用負担を軽くするか考えている客が多いように感じる。物価の上昇だけでなく、収入の減少も大きな要因なのではないかと思われる。
	理・美容店	行き付けの店から何年間も送付されていた、割引ハガキのサービスが終了した。
	住宅販売会社	サービス残業ばかり増えて、給料が増えないという話を良く聞く。
	建築設計事務所	従来は中規模業者が受注していた工事額規模の仕事に、最近は大業者が参入してきており、下請け業者を含め県内中小規模の建設業者が苦しいという話を良く聞く。
企業関係	製造業（食品）	周辺で、店舗の改装や建替えが目につく。
	製造業（出版・印刷業）	平成17年第2回茨城県議会定例会において、印刷物を物品売買契約から製造請負契約にする旨の請願が採択された。これにより、単価の下落に歯止めがかかることに期待している。
	製造業（土石製品）	景気が良くなっているとの報道があるが、公共事業の削減・縮小傾向は続いており、民間レベルでも大型の建築物は少なく、またあっても国産材よりも安価な中国財の使用が多い状況に変わりはない。
	製造業（一般機械器具）	企業の設備投資の影響で、工場等の現場に設置し、品質管理等に使用する大型商品の引き合いと受注が増加している。
	非製造業（建設業）	つくばエクスプレス関連の開発状況が注目の的である。
	非製造業（輸送業）	赤塚駅南口の再開発や内原イオンモールのオープン等があり、生活環境の変化が予想される。
	非製造業（金融業）	廃業店舗等、いわゆる空店舗を活用し、小型店の出店が目立つようになってきたが、一方で閉店する店も多く、変化が激しく感じられる。
	非製造業（広告代理業）	つくばエクスプレス開業による盛り上がりは県南部に限定されている。県北・県央のクライアントの関心は低い。一方で、イオンモール開店に向けた求人活動が活発化しているため、アルバイト・パート人材の争奪戦が顕著になっている。以前、宇都宮でインターパークやベルモールが開店した時も人材採用難となったが、水戸でも同様の状況がみられる。
	非製造業（コンサルタント業）	IT関係や人材関係のように、社会構造の変化を促進する業種は順調に成長しているように思う。
雇用関係	求人開拓員	県央地区では、流通関連の大型店が今後相次ぎ出店する予定であるが、それに対応する人材が不足している。
	公共職業安定所	ジャスコ内原店の開店に伴い、370名のパート求人申込みがあった。また、学卒求人の受件数は8月末現在で700件を超えている。
	学校就業担当者	今秋、市街地の中心にある大型スーパーが採算不良を理由に閉鎖される。また、何年も前に閉鎖した大型店のビル再利用も決まっていない。現在、デパートが1軒建替え中だが、これにより市街地中心部の空洞化をどの程度防ぐことができるか注視したい。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関係	商店街代表者	誰もが良かった90年代の再現を夢見ていると取り残されてしまう。今の状況に「不況」という言葉は適当ではない。各業界で二極化が進む中、素早く移り変わる消費者ニーズを的確に把握し、現状の中で努力するしかない。
	自動車販売店	昼間や高級な飲食店は相変わらず客が少ないが、夜間やリーズナブルな店には客が増えているように見える。一方で街には、消費者金融の店舗が増加しており、パチンコ店のみ昼夜の別なく客が一杯である。
	書店	大型店との競争に巻き込まれ商店街全体の売上げが減少している。商店街の行事等で顔を合わせるたびに、売上げが減少しているという話をあちこちから聞く。
	小売業（菓子販売店）	郊外に大型店が出店してほぼ1年が過ぎた。旧商店街の閉店が加速している。
	タクシー運転手	高齢者が病院へ通院する回数が減少しているように思う。
	割烹料理店	週休のはずの店舗が、臨時休業しているのを良く見かけるようになった。
	パチンコ店	大卒等の雇用状況を見ても、雇用数が少なく、条件も厳しくなっている。先行きが不透明な現状では、生活に不安を覚える人が多いと思う。
	クリーニング店	今年は豊作だが、米価はあまり上昇しないようで、豊作貧乏の様子である。
	サービス業	中国に進出している、自動車や産業機械関係の企業に元気があるように思う。
	住宅販売会社	パソコンの買い替えや、液晶テレビの購入等、電化製品に金をかける人をよく見かける。
	住宅販売会社	消費税の税率アップやサラリーマン増税等を懸念し、将来に不安を抱える人が非常に多い。現在のままでは、将来不安から消費が縮小し、景気は安定しないと思う。
企業関係	製造業（化学工業）	ガソリン代がどんどん高くなっているのを痛感する。
	製造業（金属製品）	都市対抗野球に出場したが、各チームとも例年以上に観客が多かった。
	製造業（化学工業）	原油高騰の折り、交通費の支給基準見直しが検討されている。
	非製造業（輸送業）	企業の合併・買収・提携等が一段落した状況の中で、各メーカーとも利益を出すために集中した物流体制を取っている気がする。今一番必要なことは、顧客に信用してもらえる体制作りだと思う。
	非製造業（金融業）	スーパーに客は集まっているが、購買意欲がチラシの目玉商品以外にまで波及していない。相変わらず財布のヒモは固いようだ。
雇用	求人開拓員	求人募集の充足ができない職種が増加している。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関係	スーパー	ビール 発泡酒 第3のビールのように、酒については、売れ筋が一段と低単価商品へシフトしている。
	スーパー	スーパーでは、一般的に景気の悪い時ほど、優秀な人材が採用できるといわれている。最近、あまり能力の高い人材を採用できなくなってきたので、景気は少しずつ良くなっているのではないかなと思う。
	コンビニエンスストア	タバコの販売個数が頭打ちになってきており、売上げが前年比割れしている店も散見される。喫煙者の減少傾向が、販売個数にも表れているようだ。
	衣料品・身の回り品販売店	バーゲン等の価格にシビアな消費者が増加している。
	家電販売店	つくばエクスプレスが開業したので、県南地区は盛り上がりつつあると思う。
	ガソリンスタンド	つくばエクスプレスが開業して、土浦駅周辺がますます寂しくなるのではないかと心配している。
	洋食食堂	町を歩いていると、運転代行の車が並んでいるのが目に付くが、人の流れは相変わらず少ないようである。また、マーケット等でも特売品は良く売れているが、付随する消費はあまりなく、依然として財布のヒモは固いと感じる。
	洋食食堂	飲食店組合で知り合った寿司店が2店閉店した。
	寿司店	従来店の閉店が相次ぐ中、100円ショップや95円ショップ等、安売り店のオープンが目につく。
	タクシー運転手	以前は、病院の患者がタクシーをよく利用していたが、最近は家族による送迎が多くなった。
	タクシー運転手	駅構内へのマイカー送迎が増加している。
	タクシー運転手	駅前個人商店の閉店が目につく。
	タクシー運転手	衆院選や知事選は、タクシー業界には全く影響がなかった。
	ゲームセンター	少子高齢化が顕著になってきた感があり、子供・高齢者を対象とした商売が好調に見える。安価なものと高価なもの両極化が加速している。
理・美容店	つくばエクスプレスの話題が多い。守谷市周辺にも大型ショッピングセンター建設の計画がでているらしい。	
理・美容店	土浦の歴史と伝統の掘り起こしを目的として、蔵を利用したジャズフェスティバルや井戸端ミニトーク等の町おこしイベントを行い好評だった。また、土浦市まちづくり活性化バス「キララちゃん」は、月8,000人が利用しており、市民サービスに活躍している。つくばエクスプレス開業により、土浦市周辺の停滞が危惧されているが、手をこまねいては前に進めないのだから、商工会議所等と連携して今後も様々な施策を講じていきたい。	
企業関係	農業関係者	アメリカのハリケーン被害の影響で、原油が更に高騰し、全ての物価に反映されるのではないかと危惧している。近所のガソリンスタンドが倒産したり、周囲の建設会社でも仕事がないという話を聞くと、地域経済の先行きが不安になる。
	製造業（食品）	つくばエクスプレス開業を多くのテレビ局や新聞社等が取材したことが、つくば市の広告として非常に効果があったと思う。
	製造業（一般印刷業）	つくばエクスプレスの開業に伴って、県南地区全体が活性化することを期待している。
	製造業（窯業・土石製品）	衆院選の結果が、今後サラリーマン増税・年金・金融等にどのように影響してくるのを見守りたい。クールビズの効果はあったように思う。
	製造業（コンクリート製造業）	つくばエクスプレスの開業、大型商業施設等のプロジェクト、市町村合併等により、今後人の流れに変化がでることが予想される。
	非製造業（建設業）	同業他社の社長達から、商売を辞めたいという相談を良く受ける。特に50歳台に多い。8~9割の社長は辞意を持っているのではないかな。
	非製造業（建設業）	利用者の減少や料金の低下等により、ゴルフ場のムードが変わったように思われる。
	非製造業（建設業）	現在、つくばエクスプレス沿線のインフラ整備は非常に遅れているので、早急な対策が必要だと思われる。また、つくばの魅力を広く伝え、都民の移住を促すPRにも更に力を注ぐべきだと思う。
	非製造業（不動産業）	つくばエクスプレス開業により県南地区の人気が高まり、都内からも業者が入っているが、この人気が続いてエンドユーザーまで浸透するかどうかは半年後に結果がでると思う。東京から人が来るのか、東京に行ってしまうのか、半年後を見守りたい。
非製造業（金融業）	土浦市内で、分譲マンションの建設が7件具体化している。不動産物件の動きが活発で、つくば駅周辺の土地が高騰しているようだ。	
雇用関係	人材派遣業	高級品の売行きが良いと聞く一方で、大幅な値引き品に群がる光景を良く目にする。
	求人広告	企業の直接採用（新規採用を含む）が増えてきたと思う。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見	
家計関係	スーパー	当店は24時まで営業しているが、21時以降の客数が多い。22時以降に家族連れで来店したり、夫婦で仕事帰りに立ち寄りする客が目立つ。消費者のライフスタイルの変化とともに、深夜まで働く人や共働きの人が増加していると感じる。給与格差の拡大に伴い、底辺の割合が増えているのだろうか。	
	スーパー	近所のパチンコ店では客数が激減している。また、大店法の規制緩和により地元商店街は壊滅状態である。	
	コンビニエンスストア	新店舗のオープン時には、セール品だけでなく、その他のファーストフードや飲料等もよく売れており、イベント感など心理的な要因で買物をする傾向が強くなっているように思う。	
	コンビニエンスストア	以前は一定期間しか売れない短命な商品が多かったが、最近は寿命の長い商品が増えてきたように思う。	
	自動車販売店	各社でパート社員、契約社員採用の話が多く聞かれる。	
	衣料品専門店	兼業農家で、妻もパート勤務の家庭では、自家用車として高級ワゴンが購入できるくらい羽振りが良いところもあるようだ。	
	農産物直売所	乗用車の更新時期にきているが、昨今のガソリン価格の上昇を考慮して、燃費の良い軽自動車に乗り換えようかと考えている。これ以上価格が上がると、景気にも響くのではないかと心配である。	
	ガソリンスタンド	県西地区では新しいスーパーの出店が盛んだが、ますます競争が激化しそうだ。一方で撤退するスーパーの噂もあり、成り行きが注目される。	
	洋食食堂	近所で30数年間営業していたファミリーレストランが閉店した。後に入るテナントも決まっていなくて、ずっと空屋になっている。ガソリンの値上がり、今後経営にどのような影響を及ぼしてくるのか心配だ。	
	和食食堂	サラリーマンはランチを千円以内で済ます傾向が強い。また、女性は健康食材に興味を示す傾向が伺える。	
	都市型ホテル	業種によって忙しい会社（特に製造業）もあり、明るい展望が出てきた感じがする反面、企業合併や廃業等により閉鎖する店舗も多くなっている。時代の変化に直面していると痛感する。	
	旅行代理店	現在はそうでもないが、新卒者にとってはまだまだ厳しい状況のようだ。	
	タクシー運転手	郊外に大型スーパーができ、駅前がひっそりしてしまった。客の流れも少しずつ変わりつつあるようだ。	
	タクシー運転手	つくばエクスプレスの開通により、身の回りの色々な所で良い影響・悪い影響が見受けられる。但し、これは一時的なものとも考えられるので、今後の様子を注視していきたい。	
	企業関係	レジャー施設	9月以降、つくばエクスプレス開業記念のイベントが続くが、来場者に満足してもらい、茨城県のリピーター、サポーターになってほしいと思う。
		理・美容店	ガソリンが高くなったという声を良く聞く。交通手段のほとんどが車のため、ガソリン代にしわ寄せされ、消費活動が鈍くなるのではないかと懸念している。
理・美容店		後継者のやる気の有無が、サービス内容にも如実に現れており、その格差は大きくなっているように思う。	
クリーニング店		近所の大手スーパーが閉店した。経営規模の大小に関わらず、どこも厳しいのだと思う。	
建築設計事務所		プロパンガスを取り扱っている会社（従業員100名程度）が、親会社の指示で、8月末に突然閉鎖した。県西地区では、地価の下落が止まらない。	
農業関係者		元の通貨切り上げにより、衣食住に関連する中国製商品が少なくなると思われる。	
製造業（食品）		原油価格高騰のために、送迎用マイクロバスの価格が引き上げられた。	
製造業（印刷業）		各業界で、勝ち組・負け組の別がはっきりしてきたと感じる。これに伴い、いわゆる負け組による犯罪や自殺が増加している。負け組となった経営者や社員達を経済的にも精神的にもフォローする仕組みを作らないと、真の意味で安全・安心な社会にはならないと思う。	
製造業（石材業）		組合の役員をしていた企業や組合内の大御所が、組合を退会するようになった。	
製造業（石材業）		客の入りが悪かった近所のスーパーマーケットが、買収されてフードストッカーという新業態に変わった。その結果、安くて高品質のものが有ると評判になり、現在は多数の客を集めている。売る物・売り方によって、消費者の反応は大きく変わるのだと実感した。	
雇用関係	製造業（印刷業）	つくばエクスプレスが開通して、人の流れが大きく変化しているのを感じられる。	
	非製造業（建設業）	依然として小売業は衰退している印象がある。	
	非製造業（金融業）	つくばエクスプレス開業による波及効果への期待感が見受けられる。	
	非製造業（不動産業）	何年も預ったまま売れなかった物件が、今年に入って幾つか成約した。	
	非製造業（広告業）	最近、景気が良くなってきたという声が多くなってきたように思う。個別的なものかもしれないが、確実に増えているようだ。	
	非製造業（コンサルタント業）	運送業などは、燃料（軽油）の価格暴騰により、かなりのコストアップを余儀なくされている。この状態は今が限界で、このまま継続すれば、経営資本の脆弱な零細企業においては廃業や倒産を強いられる所も出てくると思う。	
	求人広告	大手サッシメーカーの大口生産があり、関連企業も忙しいようだ。	
	公共職業安定所	年金の支給率切り下げ等、家庭における将来設計が立ち難い状況にあるため、購買力も低下しているのではないかと。	